



修士課程 学生便覧

2018(平成30)年度入学生用
(18W・18BS 修士課程)

【WEB掲載用：抜粋版】 ver2018.4

新入生の皆さんは、入学当初に配布された冊子をよく読み、全内容を確認してください。
なお、変更事項等は、キャンパス内掲示版で周知します。



Be a new engineering pioneer

信州大学大学院総合理工学研究科 修士課程
工学専攻・生命医工学専攻 長野(工学)キャンパス

この学生便覧はあなたが修了するまで適用されます。

紛失することのないようにしてください。

目次



エンジンやん一家

信州大学・総合理工学研究科の理念と目標	2
「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」	3
学修心得	7
在籍・修了、履修について	8
学生生活について	10
プログラム、教職課程	13
サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム	14
航空機システム共同研究講座	16
山岳科学教育プログラム	17
教職課程について	18
工学専攻	19
工学専攻のカリキュラム	20
研究科共通科目・工学専攻共通科目等一覧	21
物質化学分野	23
電子情報システム工学分野	27
水環境・土木工学分野	33
機械システム工学分野	36
建築学分野	39
生命医工学専攻	43
生命医工学専攻のカリキュラム	44
研究科共通科目・生命医工学専攻共通科目等一覧	46
生命医工学専攻 生命工学分野	48
規則集 1	49
学生の懲戒	50
学位論文審査及び最終試験並びに修了判定実施要項	52
修士論文評価基準	54
在学期間 1 年以上 2 年未満で修了する者の取り扱いに関する申合せ	55
転専攻に関する申合せ	56
交流協定に基づく留学に伴う教育課程の計画的特例履修に係る申合せ	58
長期履修学生制度の取扱要項	61
他の大学院等における研究指導に関する取扱要項	64
規則集 2 (学則・規程)	67
信州大学大学院学則	68
信州大学学位規程	81
信州大学大学院総合理工学研究科規程	84
信州大学学生生活に関する通則	101
信州大学における掲示に関する規程	101
信州大学授業料等に関する規程 (抄)	102
信州大学授業料等の免除及び徴収猶予の取り扱いに関する規程 (抄)	105
信州大学附属図書館利用規程	107
信州大学工学部講義室使用内規	109
信州大学工学部講義室使用要領	109
信州大学工学部体育施設内規	110
信州大学工学部体育施設使用要領	110
信州大学工学部課外活動共用施設内規	111
信州大学工学部課外活動共用施設使用要領	111
キャンパスマップ	112
問合わせ先	巻末

信州大学・総合理工学研究科の理念と目標



信州大学の理念と目標

信州大学の理念

信州大学は、

信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。

信州大学は、

その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に奉仕します。

信州大学は、

世界の多様な文化・思想の交わる場所であり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。

信州大学は、

自立した個性を大切にします。

信州大学で学び、研究する我々は、

その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使いません。

信州大学の目標

信州大学は、

その存立の理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において次の目標を掲げます。

(教育)

かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。

(研究)

人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。

(地域貢献)

信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的な課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。

(国際交流)

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。



総合理工学研究科の理念と目標

総合理工学研究科の理念

総合理工学研究科は、信州の豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた大学院として、それぞれの専門分野において社会に資する有為な人材を育成するための教育・研究を推進します。幅広い学問分野を含む利点を生かして、学際領域を開拓する進取の気性に富んだ人材を育成し、広い視野と高い課題解決能力をもつ高度専門職業人を養成することを教育・研究の理念とします。

総合理工学研究科の目標

本研究科は、高度な専門知識・技術および周辺分野の課題にも対応した応用力・俯瞰力と批判的思考力をもつ高度専門職業人、創造性豊かな研究者、および環境調和社会を支える知的素養と倫理観を備えた人材を養成することを教育・研究目標とします。



「学位授与の方針」（ディプロマポリシー）

信州大学大学院

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。

1. 修士課程にあつては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。
2. 博士課程にあつては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。
3. 専門職学位課程にあつては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。

総合理工学研究科

総合理工学研究科では、以下の知識と能力等を十分培い、かつ、専攻ごとに定められた学位授与方針に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与します。

1. 人類、社会の平和的・持続的発展のために、研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 深い専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力



「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラムポリシー）

信州大学大学院

大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個人々の主体的で活発な勉強意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

総合理工学研究科

総合理工学研究科は、高度専門職業人、研究者等に必要とされる高度な専門知識、手法、技能、実践力を身につけることを目標として、学位論文の作成を中心に、講義、演習、実験、実習等からなる専門性の高いカリキュラムを策定しています。カリキュラムの実施にあたってはコースワークから学位論文作成へ有機的につながる体系的な教育を行います。加えて、本研究科が幅広い学問分野により構成されているという利点を生かして、分野・専攻を超えた学際的な共通科目を設定することで、高い専門性と総合性のバランスを確保し、深い専門性と近傍分野における課題解決についての応用力や理工学系領域全体に対応する俯瞰力も養成します。

工学専攻



工学専攻の教育・研究の理念と目標

工学専攻は、恵まれた自然環境の中で個性を生かし、豊かな一般教養及び工学基礎力の素養のもとに、工学の幅広い専門的知識及び、社会に貢献できる創造性を養う教育を行い、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に貢献します。また、科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を育成します。

工学専攻は、基礎学力の向上を重視しつつ専門知識並びに学際分野の修得を基盤にし、創造力の育成と課題探求能力を開発する教育を行うとともに、地球環境保全などに対する技術者倫理をそなえ国際的視野に立ってさまざまな分野で貢献できる行動力や自立心を有する人材を育成します。



工学専攻の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学専攻では、研究科および工学専攻の目的に則り、以下の知識と能力等を十分培い、かつ、分野・ユニットごとに定められた学位授与方針に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与します。

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力



工学専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学専攻は、専攻の下に、工学部の学科と同一名称の分野（物質化学分野、電子情報システム工学分野、水環境・土木工学分野、機械システム工学分野、建築学分野）をおき、産業界・地域のニーズに応じた製品等を自ら考案し、研究・開発していく能力を有する高度技術者及び研究者を育成するための教育を行います。

工学専攻では、高度専門職業人、研究者等に必要とされる科学や技術に関連する基礎的素養を涵養するための共通科目と各分野の特色および特徴を活かした講義、演習、実験科目からなる専門科目に基づき高度な専門知識や実践的技術を身につけます。専門講義科目では、学部の専門教育をふまえた各専攻の高度な専門知識の習得を目指し、演習・実験科目においては、実践的研究能力の修得に加え、研究発表能力、プレゼンテーション能力、研究のマネジメント能力、国際性等の修得、養成を目指します。これらの科目の最終段階として2年間の成果をまとめる学位論文作成又は特定課題研究を行い、最終試験により評価します。

生命医工学専攻



生命医工学専攻の教育・研究の理念と目標

生命医工学専攻は、医学・工学・繊維学・農学・理学連携により、学部の垣根を越えた実践型研究教育を実施し、異分野の研究者と大学院生が同じテーマで共に学ぶシステム（異分野融合教育・人と場所の流動型教育）を構築し、下記の社会に資する人材を育成します。

- ・ 稀有の実体験により、産学官連携研究を推進する特殊知識・技能をもつオンリーワン人材
- ・ 製品開発能力をもつ大学研究者・医学的知識をもつ企業研究者などの人材
- ・ 知的財産などを含めた産学官連携イノベーションマネジメントの専門人材
- ・ レギュラトリーサイエンスの専門人材
- ・ 国際舞台で活躍する研究者



生命医工学専攻の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

生命医工学専攻では、研究科および繊維学専攻の目的に則り、以下の知識と能力等を充分培い、かつ、分野ごとに定められた学位授与方針に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与します。

1. 健康・福祉・医療・創薬分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える健康・福祉・医療・創薬分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力



生命医工学専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

生命医工学専攻は、医学・工学・繊維学・農学・理学の学士課程で身につけた基礎的な科学技術の素養に基づき、健康・医療・福祉領域で活躍する高度専門職業人、研究開発者等に必要とされる高度な知識や研究手法を身につけることを目標としています。これを達成するため、学士課程において理工学分野を学んだ学生には医学・生物学の基礎科目を、保健・生物・農学分野を学んだ学生については理工学系基礎科目を習得させるとともに、各専門分野の教育を行います。また、実践的教育を充実させるために、学内外の施設を利用した医療インターンシップを実施します。学位論文の作成を中心に、セミナー、講義、実験・実習・演習などからなるカリキュラムを策定しています。



学 修 心 得

はじめに

この学生便覧は、信州大学大学院学則、学位規程、総合理工学研究科規程などの諸規程を中心に、信州大学の学生として学生生活を送るために、必要事項を定めたもので、極めて重要なものです。入学時において、よく理解・把握しておくこと。

在籍・修了、履修について

在籍・修了

履修計画の立て方

単位の認定

授業日・時間割

学生生活について

学生生活について

休学・退学について

一般的な学生生活上の相談について

就職支援について



在籍・修了，履修について

在籍・修了

■在学期間

標準修業年限は2年です。また，在学期間は，修業年限の2倍を超えることができません。

■進級

1年次から2年次への進級判定はありません。休学と停学期間を除いて12ヶ月在学すると進級します。留年は，修了判定の際にのみ発生し，修業年限を超えた者のみが留年扱いとなります。

■修了要件

修了判定は，①「2年以上在学したこと」②「定められた授業科目30単位（各専攻のページ参照）を修得したこと」，③「修士学位論文審査等に合格したこと」，④「最終試験に合格したこと」の4項目により判定します。

※サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラムは，プログラム修了に必要な単位が異なります。

◇早期修了制度

原則は，2年以上在学した学生でなければ，修士課程を修了することはできませんが，研究科が優れた業績を上げたと認める者に限り，1年以上の在学により，在学期間に関する修了要件を満たすことができます。この早期修了を希望する学生は，下記の期限までに指導教員に申し出る必要があります。

<指導教員・学務係に申し出る期限>

希望修了月	4月入学生	10月入学生
1年修了申出期限	1年次の10月10日	1年次の4月10日
1.5年修了申出期限	2年次の4月10日	2年次の10月10日

◇留学に伴う計画的特例履修制度

交流協定による交換留学により，標準修業年限内で修了が困難な1年次の学生を対象に，履修期間を最長1年間延ばすことができる制度です。（2年次の学生及び長期履修を認められている学生は申請できません。）希望者は事前に制度が適用されるかどうかを学務係へ確認してください。

◇長期履修制度

職業を有している社会人学生を対象とする制度です。修学の便宜と授業料の軽減を図るため，2年間の授業料で最長4年間在学することができます。この制度の希望者は，原則として入学までに申し出ることが必要ですが，入学後でも下記の期限までに学務係に申し出ることにより，制度を利用することができます。

<指導教員・学務係に申し出る期限>

入学月	4月入学生	10月入学生
申出期限	1年次の12月末日	1年次の6月末日

■修士論文等の提出

修了を希望する者は，下記論文等提出期限までに修士論文審査申請書・修士論文を提出すること。

<修士論文の提出期限>

希望修了月	3月修了	9月修了
論文等提出期限	1月末日	7月末日

提出方法等の詳細は指導教員又は各分野の指示に従ってください。

◇論文審査

提出された修士論文は，複数の指導教員により審査されます。

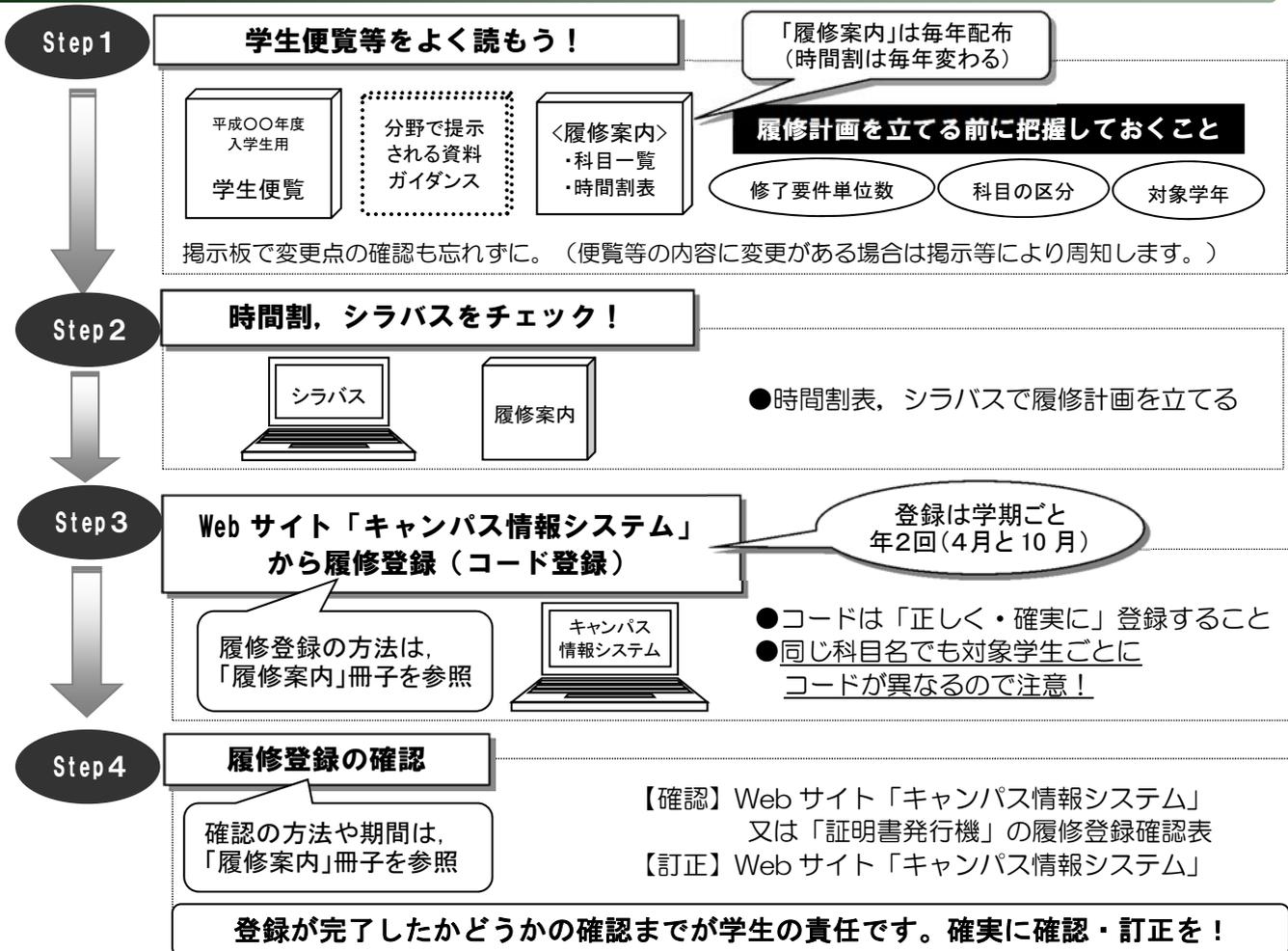
◇最終試験の実施

提出期限翌月20日までのいずれかの日付で最終試験が行われます。分野により日程が異なります。

■学位の種類

修了時に授与される学位は，工学専攻は修士（工学），生命医工学専攻は修士（医工学）です。

履修計画の立て方（自分の時間割を組む）



単位の認定

- 履修科目の試験は、学期末又は学年末に筆記試験、口頭試問、研究報告などによって行い、その可否は当該授業科目担当教員が決定します。
- 各科目の試験の成績の評語は、秀、優、良、可、不可とし、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とします。試験に合格した者には、所定の単位を与えます。

授業日・授業時間

■学年暦

履修案内に掲載しています。授業開始日・振替日などよく確認してください。

■授業時間

時限	1	2	昼休み	3	4	5	6
授業時間	9:00~ 10:30	10:40~ 12:10			13:00~ 14:30	14:40~ 16:10	16:20~ 17:50

社会人学生においては、当該年度在学生の希望にあわせ、教員の都合のつく範囲内で、可能な限り柔軟に対応します。上記時間帯以外に、集中授業・非定時授業があります。履修案内の「科目一覧」を確認してください。

■台風等による休講

台風・大雪等により、授業及び試験の実施が困難又は困難が予測される場合は、休講になる場合があります。キャンパス情報システムのお知らせの掲示等で周知しますので、各自確認してください。

■授業の欠席

本学では、いわゆる授業の公欠制度はありません。急病や近親者の葬儀等でやむを得ず授業を休まなければならない場合は、授業担当教員に直接説明してください。



学生生活について

学生生活について

※改定される場合は掲示板等で周知します。

■学生への伝達

学生への伝達等は、学内掲示板及びキャンパス情報システム、又は携帯電話等にて行います。掲示については、登下校時に必ず見るようにしてください。【学内掲示板の場所…C4（図書館）東側】URL及び工学部ほか問い合わせ先は、巻末「問合せ先」を参照ください。

■住所変更等の届け出

引越し等により、本人又は帰省先等の住所・電話番号等に変更があった場合は、必ずキャンパス情報システムから変更登録をしてください。変更登録を怠ると、大学からの緊急時の連絡がとれず、修学に支障をきたすなど不利益になる場合があります。（保証人については学務係窓口でのみ変更可能です。学務係窓口へ申し出てください。）

■証明書・学生旅客運賃割引証

「在学証明書」、「成績証明書」、「修了見込証明書（修士2年生）」は学務係にある証明書発行機により交付されます。学生証を持参して画面の案内に従って手続きをすれば、すぐに発行されます。また、「学生旅客運賃割引証（学割証）」も同様に証明書発行機で発行できます。

なお、学割証の発行枚数は1日2枚、有効期間は発行の日から3ヶ月間です。年間1人当たり15枚まで機械で発行できますが、やむを得ない事情の場合は、学務係窓口にご相談ください。

◇証明書発行機の稼働日・時間：平日 8:30～17:15（時間外や、土日祝日は利用できません。）

■海外渡航について

海外へ渡航する場合は、必ず渡航前に学務係へ海外渡航届を提出してください（指導教員の署名が必要です）。緊急時の連絡に必要となります。様式は学務係の窓口にあります。

■課外活動施設（体育館・グラウンド・テニスコート・武道場・音楽室）の利用

課外活動施設を利用する場合は、学務係へ申し出てください。休日の使用を希望する場合は、予約簿を確認の上、使用3日前までに「施設使用許可願」で学務係へ願い出て、許可を受けてください。

■奨学金について（貸与型:将来学生自身が返還する、給付型:返還不要）

奨学金は学業・人物ともに優秀な学生や、学資の支弁が困難と認められる学生に対し貸与・給付されるものです。募集等の連絡は、掲示板とキャンパス情報システムで連絡します。

◇独立行政法人日本学生支援機構の奨学金（貸与型）

奨学金を希望する学生は大学を通じて募集期間内に手続きしてください。

家計に急激な変化が生じた学生は、随時対応となります。学務係担当窓口へ相談してください。

◇その他の奨学金（貸与・給付型）

大学を通じて募集するものは掲示板とキャンパス情報システムにて通知します。

地方公共団体の奨学金を希望する場合は、各自でそれらの団体へ問い合わせてください。

■授業料免除制度

◇経済的理由等による授業料免除（説明会…1月下旬、申請時期…3月、後期分の中途申請可）

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる学生について、選考の上、その期に納付すべき授業料の全額又は半額が免除される制度があります。授業料免除を希望する学生は、免除説明会で申請書類を受取り、必要事項を記入の上、添付書類を添えて期限までに学務係へ申請してください。説明会等の詳細は掲示により通知します。

◇成績優秀学生に対する授業料免除

学業成績が特に優れ、かつ人物優秀であると認められる学生に対して、修士2年後期分（長期履修者は最終年度後期分）の授業料を免除する制度があります。各分野の教員が推薦候補者を決めますので、申請等の手続きは不要です。（生命医工学専攻の学生は申請手続きが必要です。）

■学生保険

大学では活動の幅が格段に広がることから、事故に備え何かしらの保険に加入していただくことを推奨しています。

◇信州大学が窓口となっている保険（学研災＋学研賠）

- 自分自身に対する補償…学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）
国内外における教育研究活動中〔正課（実習）・学校行事・クラブ活動中〕や通学中等における不慮の災害事故を補償する保険です。〔Aタイプ2,000万円コース〕
- 他人（ヒト・モノ）への損害賠償…学生教育研究賠償責任保険（略称：学研賠）
国内外における正課（実習）、学校行事とその往復中で、他人へのケガ及び他人の財物を破損したことにより被る法律上の損害賠償に備える保険です。〔Aコース〕

【加入手続き】

学務係で随時受け付けていますが、年度途中に加入する場合でも保険料は1年間単位となります。

【保険料】

期間	保険料合計	〔保険料内訳〕		
		学研災	学研賠	手数料
2年間	2,440円	1,750円	680円	10円
1年間	1,350円	1,000円	340円	10円

※休学等の身分異動が生じた際は、所定の手続きが必要になります。（保険の適用範囲などが変動する場合があります。詳細は学務係に問い合わせてください。）

※万一、事故や傷害が発生した場合は、直ちに学務係に報告してください。

◇東京海上日動火災保険（株）が窓口となっている保険

- 日常生活でのケガや病気の補償など⇒学研災付帯学生生活総合保険（略称：付帯学総）
学研災及び学研賠では補えない日常生活でのケガや病気等の治療実費の支払い、またクラブ活動中の賠償など学生生活をより広くカバーした補償内容です。付帯学総単独での加入はできませんので、学研災と併せて加入ください。

◇大学生協が窓口となっている保険

信州大学生生活協同組合（生協）でも、広範囲を補償する学生総合共済（生命・火災）・学生賠償扶養者死亡保障等の学生保険を取り扱っています。

◆補償内容早見表

保険	補償内容	正課・学校行事中、クラブ活動中等の自身のケガ	正課・学校行事中等の他人に対する賠償（クラブ活動は除く）	クラブ活動中の他人に対する賠償	日常生活を含む自身の病気、ケガ	日常生活での他人に対する賠償
(ア)	学研災＋学研賠	○	○	×	×	×
(イ)	学研災＋付帯学総	○	○	○	○	○
(ウ)	学生総合共済（生命）＋学生賠償	○	○	○	○	○

■キャンパス内の交通規制

- 自動車での通学は禁止です。（身体障害等の特別な事情の場合を除く。）
- 公道への違法駐車及び大学周辺への迷惑駐車は厳禁です。
- 自転車、二輪車（バイク）は、キャンパス内の指定された駐輪場へ駐輪してください。
- 二輪車（バイク）のキャンパス内走行は禁止です。

■キャンパス内の禁煙

- 平成28年4月よりキャンパス内での喫煙は禁止となりました。

休学・退学について

休学、復学、休学延長及び退学のように学籍に関わる身分の異動を希望する者は、原則1ヶ月前までに工学部学務係へ申請してください。（転専攻、転分野、長期履修生の申請時期等は別途確認のこと）

申請する前に、所属分野の指導教員及び保証人（親等）と十分に相談し、承諾を得てください。申請用紙は、学務係で配布します。申請期限に間に合わない等、その他不明な点は、早めに学務係へ相談してください。【問い合わせ先 TEL：026-269-5057】

日本学生支援機構の奨学金の貸与を受けている学生や長期履修の学生が身分の異動を希望する場合、併せて必要な提出書類があるので、学務係へ申し出てください。

休学

（大学院学則 48 条）

在学中に次の理由により、引き続き3ヶ月以上修学することができない者で、休学を希望する者は、事前に所定の「休学願」により願い出て、学長の許可を得なければなりません。

なお、下記以外の理由では許可されないので注意してください。

休学の理由	必要事項
病気のため	願に加療期間が明記された医師の診断書を添付
経済的理由のため	願の申し立て欄に詳細な事由を記載
留学のため [大学との交流協定によるものは除く]	留学先の入学許可書等を添付
公共的な事業に参加するため [国又は地方公共団体等の求めによる場合]	願の申し立て欄に詳細な事由を記載
上記の事項と同等以上の事情のため ※業務多忙のため（社会人学生）	願の申し立て欄に詳細な事由を記載

【注意事項】

期 間……1回の申請により休学できる期間は、3ヶ月以上1年以内です。

授業料……休学中は、授業料を支払う必要はありません。

在学年数……休学している期間は、修了に必要な在学年数にカウントされません。

よって、修了時期が延期されることとなります。（9月修了制度あり）

また休学中に卒業は出来ないので注意してください。

復 学……許可された休学期間が満了する際は、「復学届」に記入し学務係に提出すること。

休学延長……許可された休学期間の満了後、延長して休学したい場合、延長申請の手続きを行うこと。休学できる期間は通算して24ヶ月（2年間）です。

退学

（大学院学則 53 条）

退学を希望する者は、事前に理由を付して所定の「退学願」に必要事項を記入し、指導教員の署名・押印のうえ、学務係に提出してください。学長の承認を得た上で退学が許可されます。

なお、退学希望期日に属する学期の授業料を完納しなければ、退学は許可されません。

一般的な学生生活上の相談について

長野（工学）キャンパスでは、学務係窓口のほか、保健室において専門のカウンセラーに相談することもできます。気軽に何でも相談してください。

<長野工学キャンパス>（保健室 TEL：026-269-5077）

・保健室 URL：<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/engineering/hoken/hoken.html>

・カウンセラーによる学生相談申込の WEB 予約フォーム：

上記保健室のホームページ内、又は、ACSU (<https://acsu.shinshu-u.ac.jp/ActiveCampus>) から予約できます。

就職支援について

就職活動の支援は、C7棟（生協購買部）2階の就職支援室で行っています。求人情報・各種パンフレットは就職支援室に多くあり、専任の教職員に相談することができます。詳しくは信州大学工学部ホームページを参照してください。

<長野（工学）キャンパス>（就職支援室 TEL：026-269-5595）

・就職支援室 URL：<http://engshien.shinshu-u.ac.jp/shushoku/student.htm>



プログラム，教職課程

サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム

航空機システム共同研究講座

山岳科学教育プログラム

教職課程について

総合理工学研究科（修士課程）、総合医理工学研究科（博士課程）を横断する5年一貫プログラムです。修士・博士課程の、各専攻に所属し、所属専攻の専門科目について学びながら以下のプログラム独自のカリキュラムについても学びます。プログラムのカリキュラムを履修することにより、社会で役に立つ幅広い知識、他分野への展開力、環境経営能力、国際性などを身につけることができます。

1. 先端技術・研究開発の基礎知識の習得

エネルギー、フード、ウォーターに関する最先端の研究を各キャンパスに所属する教員から学び、先端技術の研究開発に必要な基礎・専門知識を身につけます。

- エネルギー材料科学、エネルギーデバイス、エネルギーシステム
- 水環境科学、水創成、水利用システム
- 食料機能学、食資源利用学、フードビジネス、食料生命科学、食農生産システム工学

2. 他分野への展開力養成（研究室ローテーション）

所属研究室以外に2つの研究室へそれぞれ2ヶ月間赴き、研究手法・実験方法を体験し、様々な角度から研究にアプローチする方法を身につけます。また、他分野科目も履修することにより専門分野の枠を超えた幅広い知識を身につけ、主専門研究分野へ応用する力を養います。

3. 環境技術経営能力の養成（MOT科目の履修）

信州大学経営大学院の授業科目を履修し、社会人学生と共に経営に必要な能力、社会問題を解決するための方法を身につけます。

- 経営大学院イノベーションマネジメント専攻
 - ・3科目から2科目選択必修：マーケティング、サステナビリティ概論、マネジメント入門
 - ・選択2科目：経営大学院の開講科目から選択
- 総合医理工学研究科
 - ・「科学技術政策特論」（隔年開講）

4. 実践力の養成（高度人材育成インターンシップ）

研究開発の手法や社会人としての教養などの事前指導の後、インターンシップ実習、事後教育を実施し、企業で役立つ実践力を身につけます。

5. グローバルに活躍できる人材の養成

（海外留学）

博士課程では3ヶ月以上の長期海外留学を実施し、国際的な研究・開発能力やコミュニケーション能力を養います。

6. プロジェクト展開力の養成（プロジェクト研究）

産学官共同研究、国際プロジェクト研究などをベースにした博士研究を通じて、専門知識はもちろんプロジェクト遂行に必要な能力、論理的思考能力を身につけます。

サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム学生への支援

経済的支援

- 授業料免除 ※プログラム生対象の特例による免除は平成31年度まで。標準修業年限を越えた分の授業料について免除は受けられません。
- ティーチングアシスタント（TA）・リサーチアシスタント（RA）への任用
- インターンシップ・海外留学の経費支援
- その他（TOEIC受験料補助など）

キャリアパス支援

産学間人材マッチングフォーラムによる産業界との出会いの確保

教員サポート

所属専攻の指導教員のほか、プログラムの主専門科目担当教員と副専門科目担当教員による指導

その他

e-Learningによる英語自習

サステナブルサイエティグローバル人材養成プログラム修士課程の修了要件

- 専攻の履修（30単位）に加え、各コースにおいて次のとおり12単位以上を修得し、計42単位以上を修得する。
- 講義は、必修科目として研究科共通科目の科学英語2単位と、各コースの科目6単位を含み、計8単位以上を修得する。
- 必修科目として研究科共通科目の学外特別講義（長期）2単位、学外特別実習（長期）2単位を修得する。

サステナブルサイエティグローバル人材養成プログラムの履修モデル

授業科目は変更になる場合があります。

総合医理工学研究科総合理工学専攻（博士課程）（18単位以上）

博士學位論文

特別演習 (各2単位) 4単位	特別課題演習（研究会・学会演習） 研究会・学会演習 プログラム合同ゼミナール	特別演習（論文演習） 学術論文投稿・ 博士論文作成指導	学術論文投稿
			学会・国際会議発表

授業科目（必修） 4単位	専門科目（選択） 8単位以上		学外研修 2単位	プロジェクト研究 共同研究等への参加
	科学技術政策特論 (プログラム必修) 2単位	授業科目Ⅱ 4単位以上 (サステナブル エネルギー/ フード/ウォー ター関連)	授業科目Ⅰ 4単位以上 (所属するユ ニットで開設す る専門科目)	
先鋭領域融合研究群 最先端研究特講 (研究科必修) 2単位				経営大学院 MOT関連科目 (博士課程修了までに 8単位)

総合理工学研究科修士課程（42単位以上）

特定課題研究

学外 特別実習 (各2単位)	学外特別講義（長期）	4単位
	学外特別実習（長期） (インターンシップ)	

- 選択必修科目
3科目から2科目選択4単位
マーケティング
マネジメント入門
サステナビリティ概論
- 選択科目 2科目4単位
経営大学院の開講科目の中
から選択のこと

↑
博士

↑
修士

所属専攻の履修（30単位）： 各専攻・分野の授業科目一覧参照

講義科目の他分野科目履修

所属コース（エネルギー/フード/ウォーター）に関連する他分野科目の選択が望ましい。

研究室ローテーション 各専攻の以下の科目の一部として実施

理学専攻の「演習」「特別研究」、工学専攻の「演習」「特別実験」、繊維学専攻の「演習」「特別実験」、
農学専攻の「演習」「特別研究」、生命医工学専攻の「演習」「特別実験」

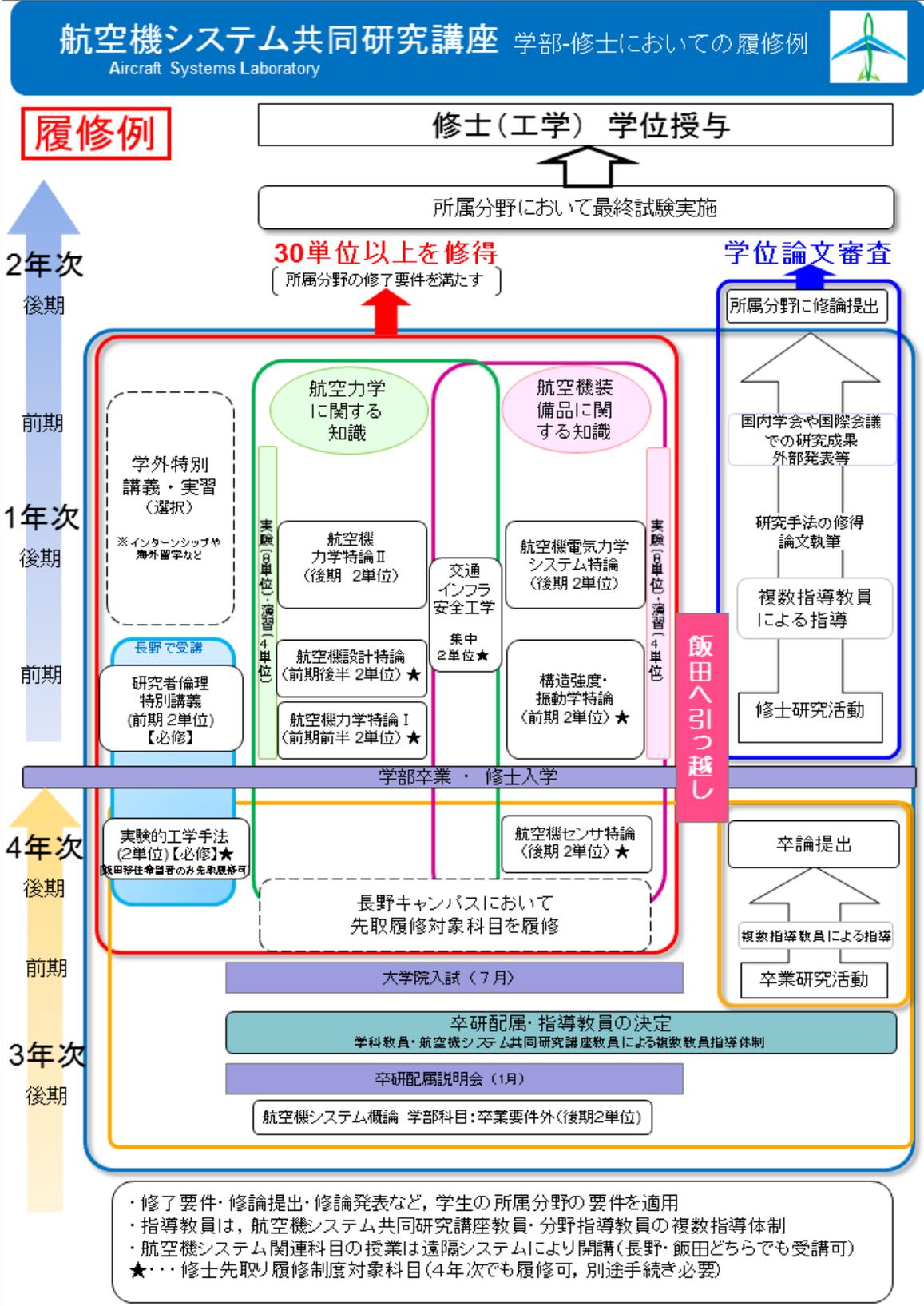
合同ゼミナール 各専攻の以下の科目の一部として実施

理学専攻の「演習」、工学専攻の「演習」、繊維学専攻の「演習」、農学専攻の「演習」、生命医工学専攻の「演習」

コース 共通科目 (各コース 8単位以上) (各科目 2単位)	エネルギー			フード			ウォーター		
	エネルギーデバイス総論（必修）			食料機能学総論			水環境科学特論		
	エネルギーシステム特論Ⅰ			フードビジネス総論			水利用システム特論		
	エネルギーシステム特論Ⅱ			食資源利用学総論			水創成特論		
	エネルギー材料科学特論Ⅰ			食料生命科学総論					
	エネルギー材料科学特論Ⅱ			食農生産システム工学特論					
科学英語（必修）									

航空機システム共同研究講座

- ・平成29年4月から南信州・飯田サテライトキャンパスにて始まった新しい講座です。
- ・各学科で学んだ基礎知識を軸として、その知識を航空機システムや装備品に活用する方法について研究活動を通じて学びます。
- ・この講座に関する詳細は、学務係へ問い合わせてください。



山岳科学教育プログラム (筑波大, 静岡大, 山梨大との連携教育プログラム)

平成30年度より開始される山岳科学を研究テーマとする教育プログラムです。山岳科学は山岳環境の様々な要因による変化と人間の営みとの関係を総合的に探求し、山岳環境と人間生活の持続可能な関係を確立する学問領域です。山岳環境問題を生物圏・地球圏・人間圏から捉え、実際的かつ臨時的に対処し、問題解決を成し遂げる人材を養成します。連携4大学の講義及び指導を受けることができ、多様なフィールドステーションでの実習・研究活動に参加できます。修了時には、修士の学位に加え、修了証が授与されます。

山岳科学教育プログラム（工学専攻）修了要件

- (1) 専攻の修了要件を満たし、山岳科学教育科目の「山岳科学概論A」、「山岳科学概論B」、「山岳フィールド実習A」及び「山岳フィールド実習B」の4単位並びに山岳科学に関する科目群より4単位以上（生物圏、地球圏、人間圏から2つ以上の群を含む。）の計8単位以上を修得すること。
 (2) 工学と山岳科学の双方に関する修士論文を提出し、最終試験に合格すること。

◇山岳科学教育プログラム講義科目群

信州大学開講科目

科目群	開講専攻等	講義科目名	単位数
必修	4大学 共同開講	山岳科学概論A	1
		山岳科学概論B	1
		山岳フィールド実習A	1
		山岳フィールド実習B	1
生物圏 科目群	農	森林生態学特論	2
	農	森林資源利用学特論	2
	農	木材理学特論	2
	農	緑地環境評価学特論	2
	農	菌類共生科学特論	2
	農	植物資源生産学特論Ⅱ	2
	農	生産環境システム学特論Ⅰ	2
	理	系統発生学	2
	理	情報生理学	2
	理	発生学	2
	理	遺伝子情報学	2
	理	比較発生学	2
	理	植物病理学	2
	理	化学生態学	2
	理	地域環境学Ⅰ	2
	理	地域環境学Ⅱ	2
理	根圏生態学	2	

科目群	開講専攻等	講義科目名	単位数
人間圏 科目群	農	環境共生学特論	2
	農	地域環境計画学特論	2
	農	生物・食資源生産学特論	2
	農	植物資源生産学特論Ⅰ	2
	工	サステナブル建築設計学	2
	工	建築保存再生設計学	2
	工	建築史学特論	2
	工	建築環境設計学	2

科目群	開講専攻等	講義科目名	単位数
地球圏 科目群	農	山地保全学特論	2
	理	古環境復元論	2
	理	古環境変動論	2
	理	地殻構造形成論	2
	理	シーケンス層序学	2
	理	変形構造解析論	1
	理	鉱物変移論	2
	理	地殻火成活動史	2
	理	岩石磁気学	2
	理	進化生態学	2
	理	植物進化学	2
	理	進化生態遺伝学	2
	理	環境計測学	2
	理	雪氷圏水文循環論	2
	理	堆積学特論	2
	理	大気陸面相互作用論	2

連携大学受講科目

開講専攻等	講義科目名	単位数
他大学 開講科目	山岳科学連携講義Ⅰ	1
	山岳科学連携講義Ⅱ	1
	山岳科学連携講義Ⅲ	1
	山岳科学連携講義Ⅳ	1
	山岳科学連携講義Ⅴ	1
	山岳科学連携講義Ⅵ	1
	山岳科学連携演習Ⅰ	1
	山岳科学連携演習Ⅱ	1
	山岳科学連携演習Ⅲ	1
	山岳科学連携演習Ⅳ	1
	山岳科学連携演習Ⅴ	1
	山岳科学連携演習Ⅵ	1

プログラムに参加を希望をする場合、別途申請が必要です。

また、他専攻・他大学で開講する科目を受講する際には別途手続きが必要です。詳細は学務係へ問い合わせください。

教職課程について

修士課程では、一種免許状（学部で単位修得）をもとに、専修免許状を取得することができます。

■所要資格

専修免許状を取得するためには、修士の学位を有し、かつ大学において「教科又は教職に関する科目」（本研究科においては「教科に関する科目」）を24単位以上修得する必要があります。

■教員免許状の種類について

取得できる免許状の種類と教科は以下のとおりです。

【工学専攻】

分野名	免許状の種類及び免許教科	
	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
物質化学分野	理科	理科・工業
電子情報システム工学分野	-	情報・工業
水環境・土木工学分野	理科	理科・工業
機械システム工学分野	理科	理科・工業
建築学分野	-	工業

【生命医工学専攻】

分野名	免許状の種類及び免許教科	
	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
生命工学分野	理科	理科
生体医工学分野	理科	理科

■修得すべき科目

各分野の授業科目一覧に、教職対応科目が示されています。自分の所属する分野の免許状取得に必要な科目の単位を修得してください。これらの単位は修了に必要な単位として認定されます。

自分の所属する分野の教科以外の免許状を取得しようとする場合は、当該免許状を取得できる分野の「教科に関する科目」を修得する必要があります。

また、修得した「教科に関する科目」は、中学・高校の両方の単位として認定されます。

■工学部教職科目の履修（一種免許状取得）について

工学部の教職関係科目を履修する場合、検定料・入学料・授業料の全てが免除となります。学部のと きに取り逃した科目を履修し、一種免許状を取得することも可能です。（教職科目に関する単位をほとんど取得していない状態では、修士2年間で一種免許状を取得することは困難です。）履修手続きについては履修案内を確認してください。

■教員免許状の申請手続きについて

総合理工学研究科では、免許状発行の一括申請を行っています。（11月頃申請書類配布）所定の期日（12～1月頃に掲示）までに学務係に忘れずに申請してください。

不明な点は学務係まで問い合わせてください。



工学専攻

修了に必要な単位数

分野以外の科目の履修

他研究科等での研究指導

研究科共通・専攻共通科目一覧

工学専攻 分野授業科目一覧

物質化学分野

電子情報システム工学分野

水環境・土木工学分野

機械システム工学分野

建築学分野



工学専攻のカリキュラム

修了に必要な単位数

工学専攻（全分野）

講義 14 単位以上（研究科共通必修 2 単位、専攻共通必修 2 単位を含む）、演習 4 単位以上、特別実験 4 単位以上、計 30 単位以上を修得する。ただし、講義 8 単位以上は選択した分野科目を、演習 4 単位以上及び特別実験 4 単位以上は選択したユニット又は分野共通科目を選択すること。

<修了に必要な単位数>

講義				演習	特別実験	合計
研究科必修科目	専攻必修科目	分野科目	選 択	選択したユニット または分野共通科目	選択したユニット または分野共通科目	
2 単位	2 単位	8 単位以上		4 単位以上	4 単位以上	30 単位 以上
14 単位以上						
自由単位 8 単位以上 (分野によって別途指定される場合があります。)						

サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム (各分野に所属しプログラム科目を履修)

専攻の履修(30 単位)に加え、次にあげる授業科目を 12 単位以上履修し、計 42 単位以上を修得する。

- ・研究科共通科目の学外特別講義(長期) 2 単位、学外特別実習(長期) 2 単位を修得する。【必修】
- ・講義は、研究科共通科目の科学英語 2 単位【必修】と、プログラムの各コース科目を 6 単位履修し、計 8 単位以上を修得する。

※履修にあたっては博士課程への進学を見据えて、科目の履修及び特定課題研究の指導を受けること。

分野以外の科目の履修

修了に必要な単位は、原則自身の所属する分野の科目(自分野科目)を修得しますが、教育上有益と認めるときは、自分野以外の科目を履修することができます。

授業科目の種別	修了に必要な単位として算入できる数	(例) 工学専攻〇〇分野の場合
自分野科目	制限なし	←〇〇分野の科目
自専攻科目		←〇〇分野以外の工学専攻の科目
自研究科共通科目		←総合理工学研究科共通科目
他専攻科目		←生命医工学専攻・繊維学専攻・理学専攻などの科目
他研究科科目	合計で 10 単位以内	←経営大学院・教育学研究科などの科目
他大学院科目	履修には研究科の承認が必要	←他大学大学院の科目
学部の科目	算入できない	←工学部の授業科目

※他専攻・学部授業の授業科目の履修 (総合理工学研究科規程第 11 条参照)

指導教員が特に必要と認めるときは、他専攻及び工学・繊維学部等の講義科目を履修することができます。ただし、学部授業の認定単位は、修了に必要な単位に算入できません。また、「科目等履修生」の手続きが必要になります。前期・通年科目は前期履修登録期限、後期科目は後期の履修登録期限までに手続きを済ませる必要があるため、早めに学務係に申し出てください。

※他研究科・他大学院の授業科目の履修 (総合理工学研究科規程第 12 条, 13 条参照)

本研究科が教育上有益と認めるときは、本学の他の研究科及び他の大学院(外国の大学院を含む)の授業科目を履修することができ、修了に必要な単位として参入することができます。〔別途手続きが必要〕

※入学前に修得した単位(先取り履修を含む) (総合理工学研究科規程第 15 条参照)

本研究科が教育上有益と認めるときは、学生が入学前に修得した単位について、修了に必要な単位として算入することができます。〔履修登録期間中に別途手続きが必要〕

他研究科等での研究指導

本研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができます。なお、研究指導を受ける期間は 1 年を超えないものとします。

(総合理工学研究科規程第 14 条参照)

研究科共通・工学専攻共通科目

★対象学年は、変更になる可能性があります。（毎年、履修案内で要確認）

大学院・研究科共通科目							教職		
区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
研究科共通科目	MOT特論	講義	2	○		○		上田キャンパス開講	
	産学連携特別講義	講義	2	○		○		上田キャンパス開講	
	国際連携特別講義Ⅰ	講義	1	○		○		上田キャンパス開講 英語	
	国際連携特別講義Ⅱ	講義	1	○		○		上田キャンパス開講 英語	
	科学英語	講義	2		○		○	松本キャンパス開講 SUNS開講	※
	大学院と社会	講義	2	○		○		松本キャンパス開講 SUNS開講	※
	臨床医学概論	講義	2		○		○	松本キャンパス開講	※
	研究者倫理特別講義（CITI-Japan&講義）	講義	2	○		○		【全員必修】	
	科学技術政策特論	講義	2		○		○	長野(工学)キャンパス開講 隔年	
	学外特別講義（長期）	講義	2	○		○		長野(工学)キャンパス開講 高度人材育成インターンシップ科目	
	学外特別実習（長期）	特別実験	2	○		○			
	研究者・技術者をめざす大学院生のキャリア設計	講義	2	○		○		SUNS開講	※
	総合日本語Ⅰ	講義	2	○		○		留学生対象 修了要件外 松本キャンパス開講 SUNS開講	※
	総合日本語Ⅱ	講義	2		○		○	留学生対象 修了要件外 松本キャンパス開講 SUNS開講	※
山岳科学教育科目	山岳科学概論A	講義	1	○		○			
	山岳科学概論B	講義	1	○		○			
	山岳フィールド実習A	特別実験	1	○		○			
	山岳フィールド実習B	特別実験	1	○		○			
山岳科学に関する科目群	山岳科学連携講義Ⅰ	講義	1	○		○			
	山岳科学連携講義Ⅱ	講義	1	○		○			
	山岳科学連携講義Ⅲ	講義	1	○		○			
	山岳科学連携講義Ⅳ	講義	1	○		○			
	山岳科学連携講義Ⅴ	講義	1	○		○			
	山岳科学連携講義Ⅵ	講義	1	○		○			
	山岳科学連携演習Ⅰ	演習	1	○		○			
	山岳科学連携演習Ⅱ	演習	1	○		○			
	山岳科学連携演習Ⅲ	演習	1	○		○			
	山岳科学連携演習Ⅳ	演習	1	○		○			
	山岳科学連携演習Ⅴ	演習	1	○		○			
	山岳科学連携演習Ⅵ	演習	1	○		○			

※は大学院共通科目としても開講しています。（他研究科の学生も履修可）

工学専攻共通科目							教職		
区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
専攻共通科目	実験的工学手法	講義	2	○	○			【工学専攻必修】	
	応用数学特論	講義	2		○				
	応用物理学特論	講義	2	○					
	Think --Communicate-- Like a Scientist	講義	2	○		○			

物質化学分野 ディプロマポリシー

1. 身のまわりの物質や材料、自然現象を専門的知識に基づいて化学的に考察でき、自ら問題点を発見し、解決する能力を有している
2. 高度な専門知識、総合的な判断力をもって研究開発を行うことができる研究者・技術者としての能力を有している
3. 専門知識と経験に基づいて、化学実験を計画・実施・解析できる能力と応用する能力をもつ
4. 化学者として自らの思考・判断を論理的に説明するためのプレゼンテーション能力をもち、発展的な議論に展開できる能力を持つ
5. 化学に対する幅広い専門知識を有し、社会・環境に対する化学の影響を意識したバランスの良い論理的判断を行うことができる

物質化学分野 履修プロセス概念図

工学専攻ディプロマポリシー

以下の知識と能力を有する人材

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力

修士(工学) 学位授与

最終試験の合格

論文題目の公開

・透明な審査体制と
質の保証

30単位以上を修得

学外特別実習 (ほか
各2単位)

講義

無機材料工学特論
無機材料化学特論
材料表面工学
精密分析化学特論
先端材料化学特論
光化学特論
機能物質化学特論
ほか
各2単位

有機合成化学特論
精密合成化学特論
分子集合体化学特論
コロイド・界面科学特論
触媒設計論
高速化学反応論
ほか
各2単位

生物化学特論
分子生物学特論
応用生物学特論
生物化学工学特論
食品バイオテクノロジー
応用食糧プロセス工学
ほか
各2単位

先端材料工学の専門知識
分子工学の専門知識
バイオ・プロセス工学の専門知識

研究科共通科目
研究者倫理特別講義
2単位

専攻共通科目
実験的工学手法
2単位

研究者倫理

研究のための
実験を実施
する能力

授業科目(コースワーク)・研究指導

演習・特別実験

各2単位

研究手法の修得・論文
執筆
複数教員による指導

研究開発
能力

プレゼン
テーション
能力

化学者として
の判断力

問題発見・
解決能力

情報活用力

研究進捗状況に関する
中間発表会

化学実験の
技術・能力

実験データの
解析・応用力

研究課題の決定

・質の担保
早期から計画的な研究指導

指導教員の決定

・組織的な教育研究体制
・質の担保
複数教員による指導

論文審査

論文発表会
透明な審査体制
公開による開催

学位論文提出

審査委員の決定
透明な審査体制
複数委員による審査

論文作成

学位論文作成・
論文審査

工学専攻

1. 科学・技術の基礎的あるいは応用的研究に積極的に取り組む人
2. 世界をリードする科学・技術を担う研究者あるいは高度専門職業人を旨とする人
3. 大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身に付けている人

★対象学年は、変更になる可能性があります。(毎年、履修案内で要確認)

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
先進材料工学ユニット	無機材料工学特論	講義	2	○		○		理	
	無機材料工学演習	演習	2	○		○		理	
	無機材料工学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				理	
	無機材料工学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		理	
	無機材料化学特論	講義	2	○		○		工	
	無機材料化学演習	演習	2	○		○		工	
	無機材料化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				工	
	無機材料化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		工	
	材料表面工学	講義	2	○		○		理	
	電気化学演習	演習	2	○		○		理	
	電気化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				理	
	電気化学特別実験Ⅱ	特別実験	2	○		○		理	
	機器分析化学特論	講義	2		○		○	工	
	機器分析化学演習	演習	2	○		○		工	
	機器分析化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				工	
	機器分析化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		工	
	先進材料化学特論	講義	2	○		○		理	
	先進材料化学演習	演習	2	○		○		理	
	先進材料化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				理	
	先進材料化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		理	
	光化学特論	講義	2		○		○	理	
	光化学演習	演習	2	○		○		理	
	光化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				理	
	光化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		理	
	機能物質化学特論	講義	2		○		○	工	
	機能物質化学演習	演習	2	○		○		工	
	機能物質化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				工	
	機能物質化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		工	
分子工学ユニット	有機合成化学特論	講義	2		○		○	理	
	有機合成化学演習	演習	2	○		○		理	
	有機合成化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				理	
	有機合成化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		理	
	分子集合体化学特論	講義	2		○		○	理	
	分子集合体化学演習	演習	2	○		○		理	
	分子集合体化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				理	
	分子集合体化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		理	
	コロイド・界面科学特論	講義	2	○		○		工	
	コロイド・界面科学演習	演習	2	○		○		工	
	コロイド・界面科学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				工	
	コロイド・界面科学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		工	

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 教科のみ
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
分子工学ユニット	触媒設計論	講義	2		○		○		工
	触媒設計演習	演習	2	○		○			工
	触媒設計特別実験Ⅰ	特別実験	2	○					工
	触媒設計特別実験Ⅱ	特別実験	2			○			工
	高速化学反応論	講義	2		○		○		理
	高速化学反応演習	演習	2	○		○			理
	高速化学反応特別実験Ⅰ	特別実験	2	○					理
	高速化学反応特別実験Ⅱ	特別実験	2			○			理
	精密合成化学特論	講義	2	○		○			
	精密合成化学演習	演習	2	○		○			
	精密合成化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○					
	精密合成化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○			
バイオ・プロセス工学ユニット	生物化学特論	講義	2	○		○			理
	分子生物学特論	講義	2	○		○			理
	応用生物学特論	講義	2		○		○		理
	生物化学工学特論	講義	2	○		○			理
	バイオ・プロセス工学演習Ⅰ	演習	2	○		○			工
	バイオ・プロセス工学演習Ⅱ	演習	2	○		○			工
	バイオ・プロセス工学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○			工
	バイオ・プロセス工学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○			工
	食品バイオテクノロジー	講義	2	○		○		☆ながのブランド郷土食	工
	応用食品プロセス工学	講義	2	○		○		☆ながのブランド郷土食	工
	食品科学	講義	2	○		○		☆ながのブランド郷土食	
	食品バイテク実習	講義	1	○		○		☆ながのブランド郷土食	
	食品プロセス実習	講義	1	○		○		☆ながのブランド郷土食	
	機能性食品特別講義Ⅰ	講義	1	○		○		☆ながのブランド郷土食	
機能性食品特別講義Ⅱ	講義	1	○		○		☆ながのブランド郷土食		
分野共通	応用解析学特論	講義	2	○					
	数理解析特論	講義	2		○				
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○			
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○			
	数理情報学応用特論	講義	2		○		○		
	数理情報学応用演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用演習Ⅱ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用特別実験	特別実験	4	○		○			
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○				

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 教科のみ
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
分野共通	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○					
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○					
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○			
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○			
	学外特別講義	講義	2	○		○			
	学外特別実習Ⅰ	特別実験	2	○		○			
	学外特別実習Ⅱ	特別実験	2	○		○			

ながのブランド郷土食『ながの食品加工マスター』 認定対象科目

★対象学年は、変更になる可能性があります。（毎年、履修案内で要確認）

ながの食品加工マスター認定対象科目	科目群	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考
					1年次		2年次		
					前	後	前	後	
A		食品バイオテクノロジー	講義	2	○		○		
		応用食品プロセス工学	講義	2	○		○		
		食品科学	講義	2	○		○		
		マーケティング *経営大学院開講科目	講義	2		○		○	他研究科科目聴講願の提出必要 後期(前半)開講
B		食品バイテク実習	講義	1	○		○		
		食品プロセス実習	講義	1	○		○		
C		機能性食品特別講義Ⅰ	講義	1	○		○		隔年開講
		機能性食品特別講義Ⅱ	講義	1	○		○		隔年開講
任意		学外特別講義（長期） *研究科共通科目	講義	2	○		○		長野(工学)キャンパス開講 高度人材育成インターンシップ科目
		学外特別実習（長期） *研究科共通科目	特別実験	2	○		○		

★『ながの食品加工マスター』認定条件

A科目群の中から2科目（計4単位），B科目群から1科目（1単位），C科目群から1科目（1単位）合計6単位以上取得した場合，ながのブランド郷土食運営協議会での議を経て資格を認定する。希望者は，食品加工に関する企業のインターンシップに参加できる。（学外特別講義（長期）・学外特別実習（長期）等の一環としても履修可。要履修登録）詳細は，「ながのブランド郷土食」事務局に問合せください。

電子情報システム工学分野 ディプロマポリシー

- 1 数学・物理学の基礎知識に加え、電気電子工学、通信工学、情報工学に関する専門的な知識を修得・活用することができる。
- 2 人類、社会の平和的・持続的発展のために、自然、社会、歴史、文化に対する幅広い教養を持ち、電子情報システム技術の社会、環境に対する影響について、倫理観を持って判断できる。自らの考えを他者に理解できるように伝達すると共に、相手の考えを十分に把握して論理的に討議できる高いコミュニケーション能力を有する。
- 3 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える電気電子工学に関する専門的な実験・演習を遂行し、様々な物理現象を解析できる。
- 4 さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力と深い基礎知識を活用し、電気電子工学、通信工学、情報工学に関する研究を遂行できる。
- 5 エネルギー・エレクトロニクス・情報通信分野に関する専門知識を修得し、グローバルな視点から知識を活用することができる。
- 6 コンピュータのハードウェア、ソフトウェアに関する高度な要素技術を理解し、ハードウェア、ソフトウェア、及びコンピュータ応用分野における卓越したシステムの設計、試作、評価を行うことができる。
- 7 コンピュータソフトウェアに関する専門知識及び卓越したプログラミング技術を有する。

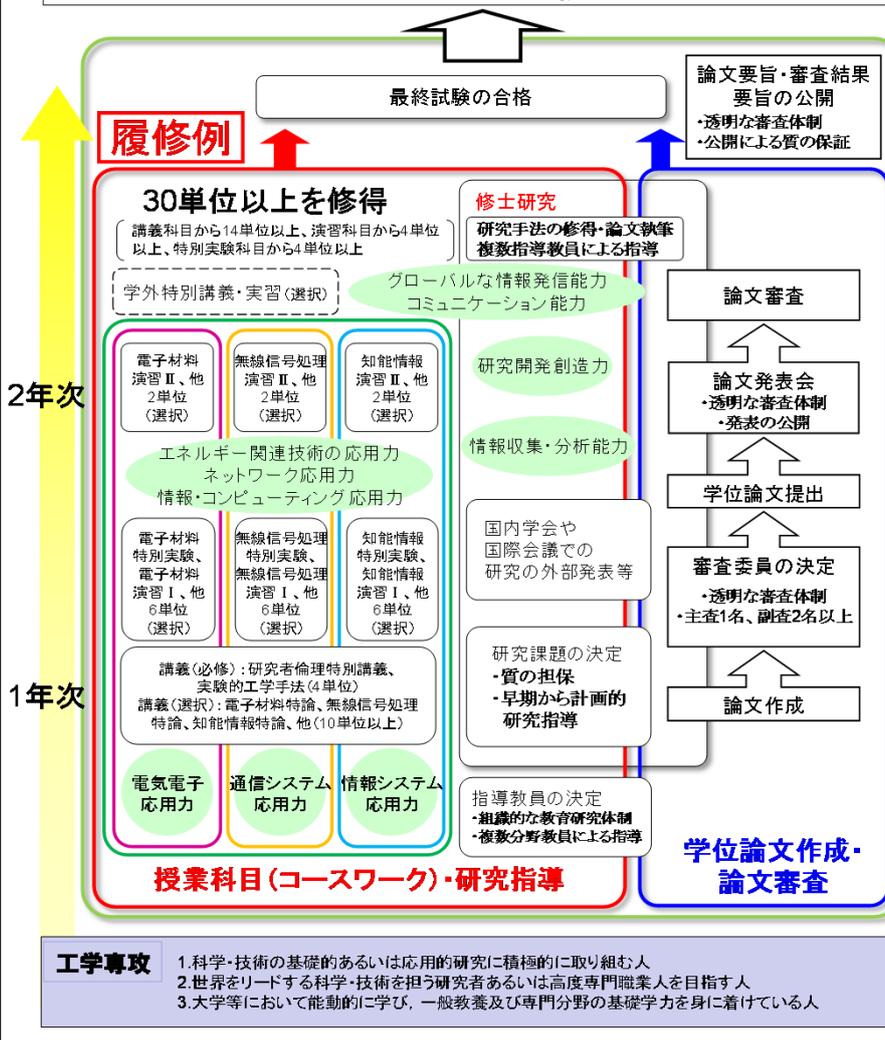
電子情報システム工学分野履修プロセス概念図

工学専攻ディプロマポリシー

以下の知識と能力を有する人材

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力

修士(工学) 学位授与



★対象学年は、変更になる可能性があります。(毎年、履修案内で要確認)

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 教科のみ
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
電気電子ユニット	光エレクトロニクス特論	講義	2	○				工	
	光エレクトロニクス演習Ⅰ	演習	2	○					
	光エレクトロニクス演習Ⅱ	演習	2			○			
	光エレクトロニクス特別実験	特別実験	4	○					
	電気エネルギー変換工学特論	講義	2		○			工	
	電気エネルギー変換工学演習Ⅰ	演習	2	○					
	電気エネルギー変換工学演習Ⅱ	演習	2			○			
	電気エネルギー変換工学特別実験	特別実験	4	○					
	エネルギー・高周波デバイス特論	講義	2	○				工	
	エネルギー・高周波デバイス演習Ⅰ	演習	2	○					
	エネルギー・高周波デバイス演習Ⅱ	演習	2			○			
	エネルギー・高周波デバイス特別実験	特別実験	4	○					
	結晶成長特論	講義	2		○			工	
	結晶成長演習Ⅰ	演習	2	○					
	結晶成長演習Ⅱ	演習	2			○			
	結晶成長特別実験	特別実験	4	○					
	環境磁界発電特論	講義	2		○			工	
	環境磁界発電演習Ⅰ	演習	2	○					
	環境磁界発電演習Ⅱ	演習	2			○			
	環境磁界発電特別実験	特別実験	4	○					
	電子材料特論	講義	2	○				工	
	電子材料演習Ⅰ	演習	2	○					
	電子材料演習Ⅱ	演習	2			○			
	電子材料特別実験	特別実験	4	○					
	強誘電体材料特論	講義	2		○			工	
	強誘電体材料演習Ⅰ	演習	2	○					
	強誘電体材料演習Ⅱ	演習	2			○			
	強誘電体材料特別実験	特別実験	4	○					
	電磁気応用特論	講義	2		○				
	電磁気応用演習Ⅰ	演習	2	○					
	電磁気応用演習Ⅱ	演習	2			○			
	電磁気応用特別実験	特別実験	4	○					
	磁気回路特論	講義	2	○				工	
磁気回路演習Ⅰ	演習	2	○						
磁気回路演習Ⅱ	演習	2			○				
磁気回路特別実験	特別実験	4	○						
CMOSアナログ集積回路設計特論	講義	2		○			工		
CMOSアナログ集積回路設計演習Ⅰ	演習	2	○						
CMOSアナログ集積回路設計演習Ⅱ	演習	2			○				
CMOSアナログ集積回路設計特別実験	特別実験	4	○						

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 教科のみ
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
電気電子ユニット	光電変換デバイス特論	講義	2		○				
	光電変換デバイス演習Ⅰ	演習	2	○					
	光電変換デバイス演習Ⅱ	演習	2			○			
	光電変換デバイス特別実験	特別実験	4	○					
	知覚情報論	講義	2		○		○		
	電気電子工学特論	講義	2	○		○		南信州・飯田サテライトキャンパス開講	
	ソフトウェア工学特論	講義	2	○		○		南信州・飯田サテライトキャンパス開講	
	モバイル制御特論	講義	2		○		○	南信州・飯田サテライトキャンパス開講	
	航空宇宙工学特論	講義	2		○		○	南信州・飯田サテライトキャンパス開講	
通信システムユニット	情報システム工学特論	講義	2		○			工	
	情報システム工学演習Ⅰ	演習	2	○					
	情報システム工学演習Ⅱ	演習	2			○			
	情報システム工学特別実験	特別実験	4	○					
	無線信号処理特論	講義	2		○			工	
	無線信号処理演習Ⅰ	演習	2	○					
	無線信号処理演習Ⅱ	演習	2			○			
	無線信号処理特別実験	特別実験	4	○					
	無線通信システム特論	講義	2		○			工	
	無線通信システム演習Ⅰ	演習	2	○					
	無線通信システム演習Ⅱ	演習	2			○			
	無線通信システム特別実験	特別実験	4	○					
	情報処理特論	講義	2	○				工	
	情報処理演習Ⅰ	演習	2	○					
	情報処理演習Ⅱ	演習	2			○			
	情報処理特別実験	特別実験	4	○					
	情報理論特論	講義	2	○				工	
	情報理論演習Ⅰ	演習	2	○					
	情報理論演習Ⅱ	演習	2			○			
	情報理論特別実験	特別実験	4	○					
信号検出特論	講義	2	○				工		
信号検出演習Ⅰ	演習	2	○						
信号検出演習Ⅱ	演習	2			○				
信号検出特別実験	特別実験	4	○						
情報システムユニット	符号化技術特論	講義	2	○		○		情 情 情 情	
	符号化技術演習Ⅰ	演習	2	○					
	符号化技術演習Ⅱ	演習	2			○			
	符号化技術特別実験	特別実験	4	○					
	生体信号処理特論	講義	2	○					
	生体信号処理演習Ⅰ	演習	2	○					
	生体信号処理演習Ⅱ	演習	2			○			

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		教科のみ
情報システムユニット	生体信号処理特別実験	特別実験	4	○					
	情報セキュリティ学特論	講義	2		○				
	情報セキュリティ学演習Ⅰ	演習	2	○					
	情報セキュリティ学演習Ⅱ	演習	2			○			
	情報セキュリティ学特別実験	特別実験	4	○					
	モデル駆動ソフトウェア開発演習Ⅰ	演習	2	○					
	モデル駆動ソフトウェア開発演習Ⅱ	演習	2			○			
	モデル駆動ソフトウェア開発特別実験	特別実験	4	○				情	
	ソフトウェア解析特論	講義	2		○		○	情	
	ソフトウェア解析演習Ⅰ	演習	2	○				情	
	ソフトウェア解析演習Ⅱ	演習	2			○		情	
	ソフトウェア解析特別実験	特別実験	4	○				情	
	知識工学特論	講義	2	○					
	知識工学演習Ⅰ	演習	2	○				情	
	知識工学演習Ⅱ	演習	2			○		情	
	知識工学特別実験	特別実験	4	○				情	
	インタラクションデザイン学特論	講義	2		○		○	情	
	インタラクションデザイン学演習Ⅰ	演習	2	○				情	
	インタラクションデザイン学演習Ⅱ	演習	2			○		情	
	インタラクションデザイン学特別実験	特別実験	4	○				情	
	光センシング技術特論	講義	2	○		○		情	
	光センシング技術演習Ⅰ	演習	2	○				情	
	光センシング技術演習Ⅱ	演習	2			○		情	
	光センシング技術特別実験	特別実験	4	○				情	
	形式化数学特論	講義	2	○		○			
	形式化数学演習Ⅰ	演習	2	○					
	形式化数学演習Ⅱ	演習	2			○			
	形式化数学特別実験	特別実験	4	○				情	
	集積回路設計特論	講義	2					情	
	集積回路設計演習Ⅰ	演習	2	○					
	集積回路設計演習Ⅱ	演習	2			○			
	集積回路設計特別実験	特別実験	4	○					
画像・信号処理特論	講義	2		○					
画像・信号処理演習Ⅰ	演習	2	○						
画像・信号処理演習Ⅱ	演習	2			○				
画像・信号処理特別実験	特別実験	4	○						
物理計測技術特論	講義	2							
物理計測技術演習Ⅰ	演習	2	○						
物理計測技術演習Ⅱ	演習	2			○				
物理計測技術特別実験	特別実験	4	○				情		

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		教科のみ
情報システムユニット	仮想化技術特論	講義	2	○					
	仮想化技術演習Ⅰ	演習	2	○				情	
	仮想化技術演習Ⅱ	演習	2			○		情	
	仮想化技術特別実験	特別実験	4	○				情	
	生体情報計測特論	講義	2		○		○	情	
	生体情報計測演習Ⅰ	演習	2	○					
	生体情報計測演習Ⅱ	演習	2			○			
	生体情報計測特別実験	特別実験	4	○				情	
	最適化算法特論	講義	2		○		○	情	
	最適化算法演習Ⅰ	演習	2	○					
	最適化算法演習Ⅱ	演習	2			○			
	最適化算法特別実験	特別実験	4	○				情	
	知能情報特論	講義	2	○				情	
	知能情報演習Ⅰ	演習	2	○				情	
	知能情報演習Ⅱ	演習	2			○		情	
	知能情報特別実験	特別実験	4	○				情	
	応用情報工学特論	講義	2	○				情	
	応用情報工学演習Ⅰ	演習	2	○					
	応用情報工学演習Ⅱ	演習	2			○			
	応用情報工学特別実験	特別実験	4	○				情	
	離散構造特論	講義	2		○			情	
	離散構造演習Ⅰ	演習	2	○					
	離散構造演習Ⅱ	演習	2			○			
	離散構造特別実験	特別実験	4	○				情	
	計算理論特論	講義	2	○				情	
	計算理論演習Ⅰ	演習	2	○				情	
	計算理論演習Ⅱ	演習	2			○		情	
	計算理論特別実験	特別実験	4	○				情	
	スピントロニクス特論	講義	2	○				情	
	スピントロニクス演習Ⅰ	演習	2	○				情	
	スピントロニクス演習Ⅱ	演習	2			○		情	
	スピントロニクス特別実験	特別実験	4	○				情	
並列分散システム特論	講義	2	○				情		
並列分散システム演習Ⅰ	演習	2	○				情		
並列分散システム演習Ⅱ	演習	2			○		情		
並列分散システム特別実験	特別実験	4	○				情		
分野共通	応用解析学特論	講義	2	○					
	数理解析特論	講義	2		○				
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○			

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			教科のみ
				前	後	前	後		
分野共通	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○			
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○			
	数理情報学応用特論	講義	2		○		○		
	数理情報学応用演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用演習Ⅱ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用特別実験	特別実験	4	○		○			
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○				
	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○					
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○					
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○			
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○			
	学外特別講義	講義	2	○		○			
	学外特別実習Ⅰ	特別実験	2	○		○			
	学外特別実習Ⅱ	特別実験	2	○		○			

水環境・土木工学分野 ディプロマポリシー

1. 水環境・土木工学全般のさまざまな問題に対処できる、高度な専門技術者として必要な幅広い知識や高い工学的な問題解決能力と表現力・対話力、グローバルな情報発信力を身につけている
2. 安全・安心で持続可能な水環境や社会環境を構築するための高い情報収集・分析能力、高度な専門知識と実践的な技術力を身につけている
3. 信頼される高度な専門技術者としての精神と倫理観を身につけている
4. 水環境・土木工学分野において、地域適合型技術の幅広い適用に努めることができる

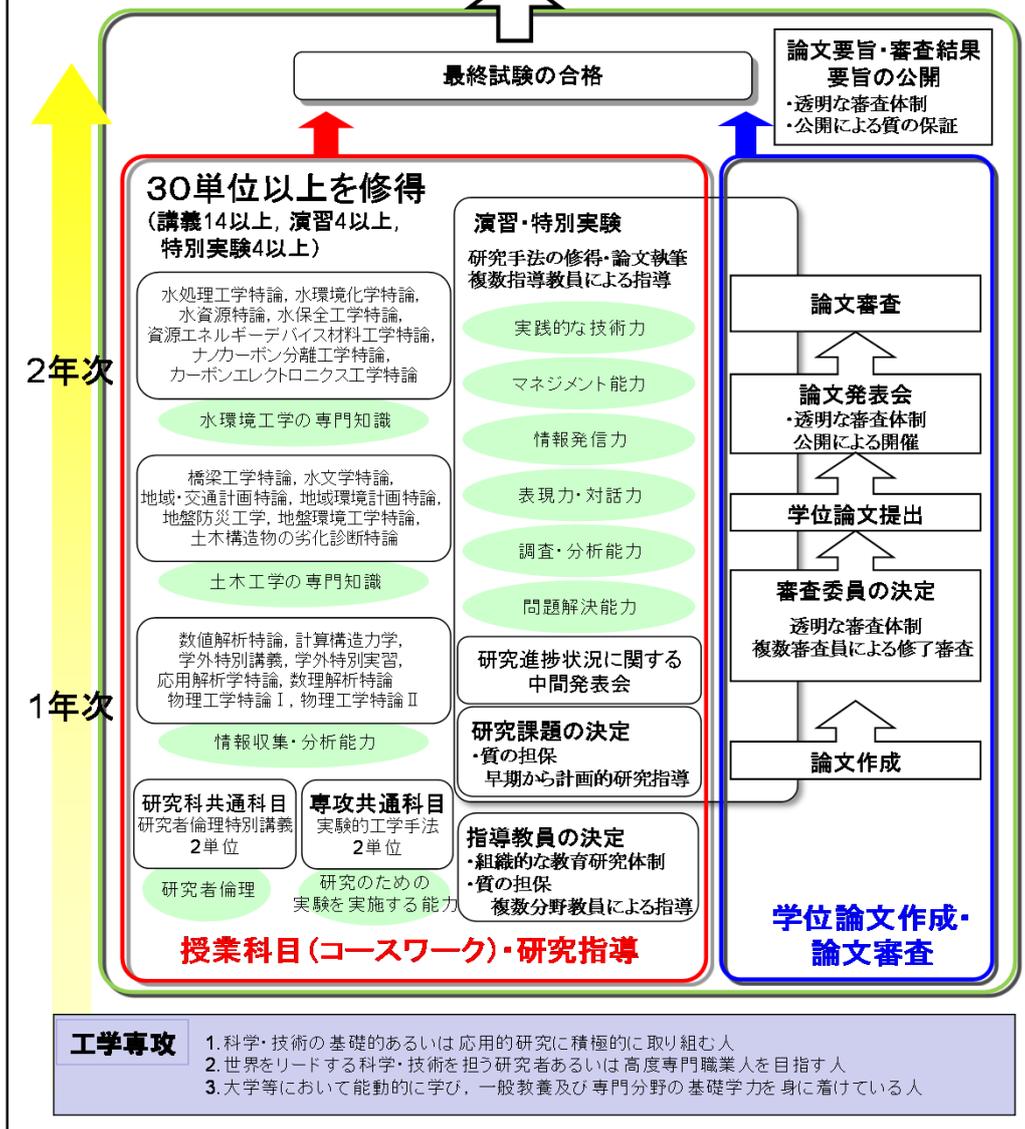
水環境・土木工学分野 履修プロセス概念図

工学専攻ディプロマポリシー

以下の知識と能力を有する人材

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力

修士(工学) 学位授与



工学専攻

1. 科学・技術の基礎的あるいは応用的研究に積極的に取り組む人
2. 世界をリードする科学・技術を担う研究者あるいは高度専門職業人を目指す人
3. 大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身に着けている人

工学専攻 水環境・土木工学分野 授業科目一覧 1/2

★対象学年は、変更になる可能性があります。（毎年、履修案内で要確認）

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 教科のみ
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
水環境ユニット	水処理工学特論	講義	2		○			工	
	水処理工学演習	演習	4	○				工	
	水処理工学特別実験	特別実験	4	○				工	
	資源エネルギーデバイス材料工学特論	講義	2		○		○	工	
	資源エネルギーデバイス材料工学演習	演習	4	○		○		工	
	資源エネルギーデバイス材料工学特別実験	特別実験	4	○		○		工	
	水環境化学特論	講義	2		○		○	理	
	水環境化学演習	演習	4	○		○		理	
	水環境化学特別実験	特別実験	4	○		○		理	
	ナノカーボン分離工学特論	講義	2	○		○		工	
	ナノカーボン分離工学演習	演習	4	○				工	
	ナノカーボン分離工学特別実験	特別実験	4	○				工	
	カーボンエレクトロニクス工学特論	講義	2	○				工	
	カーボンエレクトロニクス工学演習	演習	4	○				工	
カーボンエレクトロニクス工学特別実験	特別実験	4	○				工		
土木ユニット	橋梁工学特論	講義	2	○				工	
	橋梁工学演習	演習	4	○				工	
	橋梁工学特別実験	特別実験	4	○				工	
	水文学特論	講義	2	○				理	
	水文学演習	演習	4	○				理	
	水文学特別実験	特別実験	4	○				理	
	地域・交通計画特論	講義	2		○		○	工	
	地域・交通計画演習	演習	4	○		○		工	
	地域・交通計画特別実験	特別実験	4	○		○		工	
	地盤環境工学特論	講義	2		○			工	
	地盤環境工学演習	演習	4	○				工	
	地盤環境工学特別実験	特別実験	4	○				工	
	土木構造物の劣化診断特論	講義	2		○		○	工	
	土木構造物の劣化診断演習	演習	4	○		○		工	
土木構造物の劣化診断特別実験	特別実験	4	○		○		工		
分野共通	地盤防災工学	講義	2	○				工	
	地盤防災演習	演習	4	○				工	
	地盤防災特別実験	特別実験	4	○				工	
	水資源特論	講義	2		○			理	
	水資源演習	演習	4	○				理	
	水資源特別実験	特別実験	4	○				理	
	水保全工学特論	講義	2		○			工	
	水保全工学演習	演習	4	○				工	
	水保全工学特別実験	特別実験	4	○				工	
	数値解析特論	講義	2		○			理	

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		教科のみ
分野共通	数値解析演習	演習	4	○				理	
	数値解析特別実験	特別実験	4	○				理	
	計算構造力学	講義	2	○		○		理	
	計算構造力学演習	演習	4	○		○		理	
	計算構造力学特別実験	特別実験	4	○		○		理	
	地域環境計画特論	講義	2		○		○	理	
	地域環境計画演習	演習	4	○		○		理	
	地域環境計画特別実験	特別実験	4	○		○		理	
	河川計画管理特論	講義	2	○					
	河川計画管理演習	演習	4	○					
	河川計画管理特別実験	特別実験	4	○					
	応用解析学特論	講義	2	○					
	数理解析特論	講義	2		○				
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○			
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○			
	数理情報学応用特論	講義	2		○		○		
	数理情報学応用演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用演習Ⅱ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用特別実験	特別実験	4	○		○			
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○				
	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○					
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○					
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○			
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○			
	学外特別講義	講義	2	○		○			
学外特別実験	特別実験	2	○		○				

機械システム工学分野 ディプロマポリシー

1. 機械システム工学の基礎を理解した上で、応用発展させることができる。
2. 物理現象を理解・考察し、正確かつ安全な機械工学分野の実験を計画・実施し、解析する能力を有する。
3. 機械工学分野の研究を自らの論理的思考により遂行する能力を有する。
4. 現象と課題を理解し、論理的判断ができ、解決する方法を自ら創造できる能力を有する。
5. 自然および人類社会が直面している環境問題を理解し、問題を解決する基礎的能力を身につけることができる。
6. 安全で環境負荷を低減するための新しい機械材料を開発することができる。
7. 自然エネルギーを利用した環境にやさしい機械を開発することができる。
8. 人や社会をサポートする智能機械を開発することができる。

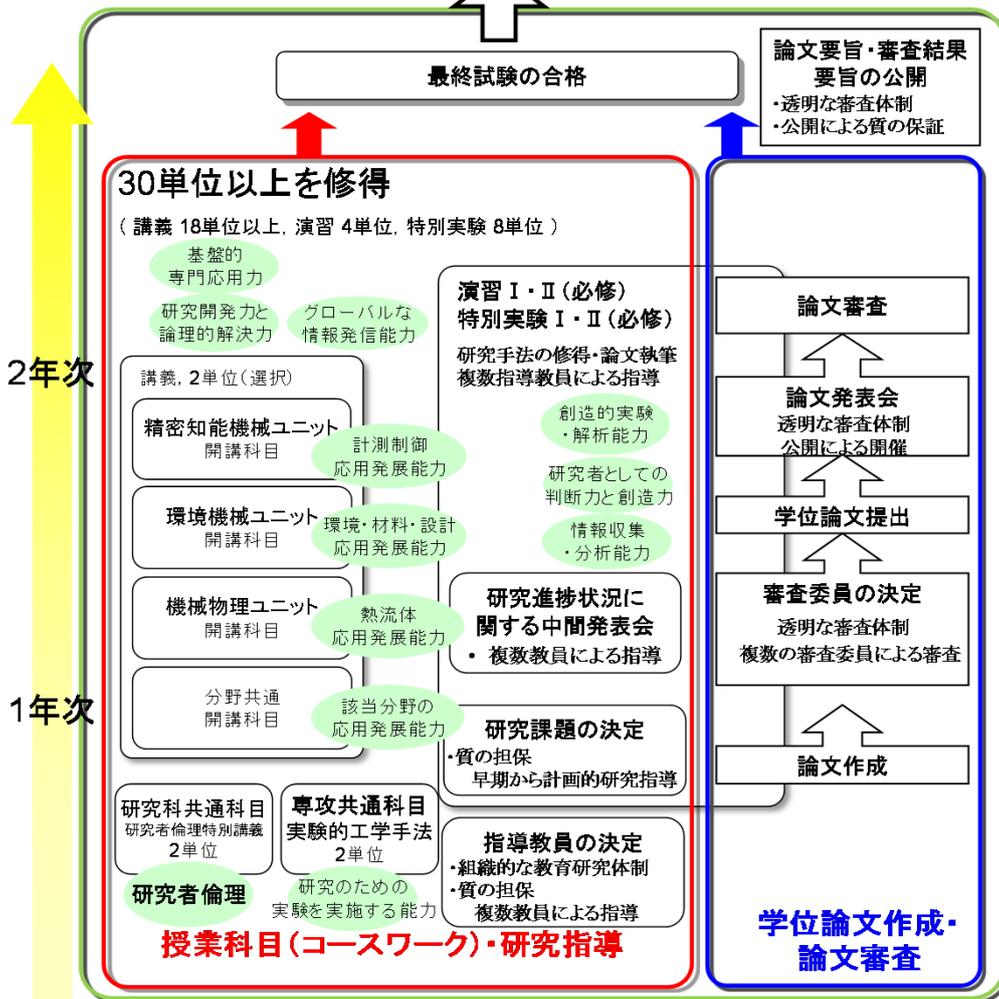
機械システム工学分野 履修プロセス概念図

工学専攻ディプロマポリシー

以下の知識と能力を有する人材

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力

修士(工学) 学位授与



工学専攻

1. 科学・技術の基礎的あるいは応用的研究に積極的に取り組む人
2. 世界をリードする科学・技術を担う研究者あるいは高度専門職業人を目指す人
3. 大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身につけている人

工学専攻 機械システム工学分野 授業科目一覧 1/2

★対象学年は、変更になる可能性があります。（毎年、履修案内で要確認）

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 教科のみ
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
精密知能機械ユニット	システム制御特論	講義	2	○				工	
	精密機構特論	講義	2		○			工	
	機械システム制御特論	講義	2	○				工	
	計測システム特論	講義	2	○				工	
	精密知能機械演習Ⅰ	演習	2		○			工	
	精密知能機械演習Ⅱ	演習	2		○			工	
	精密知能機械特別実験Ⅰ	特別実験	4		○			工	
	精密知能機械特別実験Ⅱ	特別実験	4				○	工	
環境機械ユニット	機械加工学特論	講義	2		○			工	
	動的システム設計特論	講義	2		○			工	
	塑性加工学特論	講義	2		○			工	
	構造物工学特論	講義	2	○				工	
	固体力学特論	講義	2		○			理	
	エコマテリアル特論	講義	2	○				理	
	材料環境強度学特論	講義	2	○				理	
	計算力学特論	講義	2	○				理	
	最適設計学特論	講義	2		○			理	
	計算材料科学特論	講義	2		○				
	環境機械演習Ⅰ	演習	2		○			理	
	環境機械演習Ⅱ	演習	2		○			工	
	環境機械特別実験Ⅰ	特別実験	4		○			理	
	環境機械特別実験Ⅱ	特別実験	4				○	工	
機械物理ユニット	乱流輸送現象特論	講義	2	○				理	
	熱流体数値計算法特論	講義	2		○			理	
	伝熱工学特論	講義	2		○			工	
	流体力学特論	講義	2		○			理	
	熱流動解析学特論	講義	2	○				理	
	機械物理演習Ⅰ	演習	2		○			理	
	機械物理演習Ⅱ	演習	2		○			工	
	機械物理特別実験Ⅰ	特別実験	4		○			理	
機械物理特別実験Ⅱ	特別実験	4				○	工		
分野共通	超精密加工実習Ⅰ	講義	1	○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆		
	超精密加工実習Ⅱ	講義	1	○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆		
	超精密加工実習Ⅲ	講義	1	○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆		
	超精密加工実習Ⅳ	講義	1	○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆		
	先端精密加工実習	講義	1		○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	超精密加工学特論Ⅰ	講義	2	○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆		
	超精密加工学特論Ⅱ	講義	2	○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆		
	超精密加工学特論Ⅲ	講義	1	○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆		
	発明的問題解決理論	講義	1		○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆	

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 教科のみ
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
分野共通	表面処理・計測評価技術特論	講義	2	○		○		「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	先端材料学特論	講義	1		○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	精密位置決め技術特論	講義	2		○		○	「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	管理技術特論Ⅰ	講義	2	○		○		「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	管理技術特論Ⅱ	講義	2	○		○		「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	機械システム演習Ⅰ	演習	2	○				「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	機械システム演習Ⅱ	演習	2			○		「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	機械システム特別実験Ⅰ	特別実験	4	○				「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	機械システム特別実験Ⅱ	特別実験	4			○		「超精密加工技術」社会人プログラム☆	
	応用解析学特論	講義	2	○					
	数理解析特論	講義	2		○				
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○			
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○			
	数理情報学応用特論	講義	2		○		○		
	数理情報学応用演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用演習Ⅱ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用特別実験	特別実験	4	○		○			
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○				
	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○					
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○					
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○			
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○			
	学外特別講義	講義	2	○		○			
学外特別実習	特別実験	2	○		○				

「超精密加工技術」社会人プログラム（☆印の授業科目）

職業を有する社会人を対象とした文部科学省認定「職業実践力育成プログラム」（BP）プログラムです。このプログラムは、諏訪圏サテライトキャンパスを拠点として授業を開講します。岡谷・諏訪地域の協力企業・協力機関において講義・実習を受講すること、受講者・各企業からの持ち込み課題を研究テーマに据えた実験、研究指導を受けることも可能です。（事前に指導予定教員との相談が必要です。）



文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）—Brush up Program for professional—
大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が
認定し、社会人の学び直しを推進する制度です。2015年度から認定がはじまりました。

建築学分野 ディプロマポリシー

建築技術者としての自覚、
建設技術の基礎となる認識力、
建築と都市の双方にわたる総合的な思考
建築環境デザイン力・建築構造デザイン力・新旧統合デザイン力をもつ人材

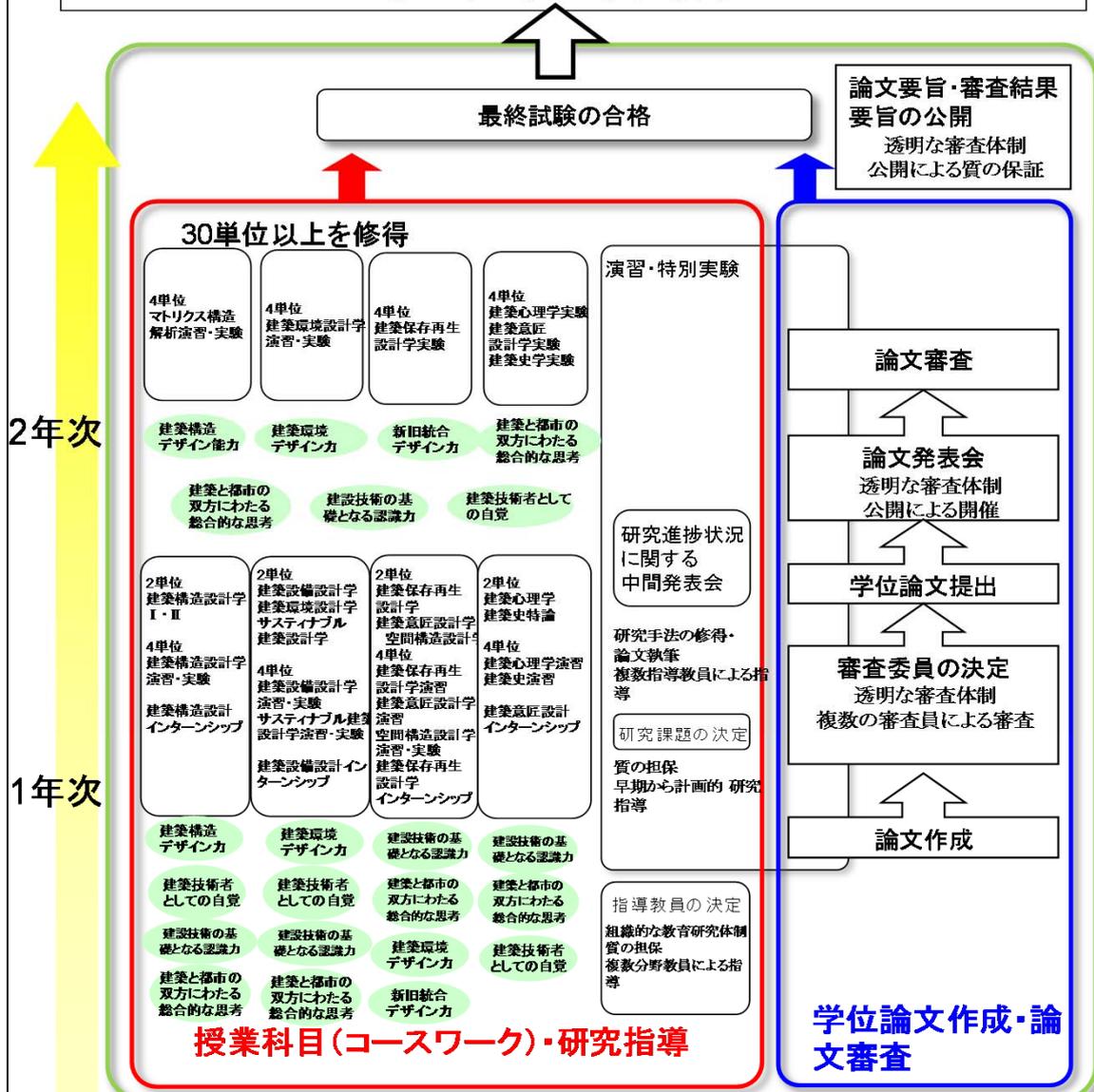
建築学分野 履修プロセス概念図

工学専攻ディプロマポリシー

以下の知識と能力を有する人材

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会, 知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力

修士(工学) 学位授与



工学専攻

1. 科学・技術の基礎的あるいは応用的研究に積極的に取り組む人
2. 世界をリードする科学・技術を担う研究者あるいは高度専門職業人を目指す人
3. 大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身に付けている人

★対象学年は、変更になる可能性があります。（毎年、履修案内で要確認）

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		教科のみ
建築学ユニット	建築意匠設計学	講義	2		○			工	
	建築意匠設計学演習	演習	4	○				工	
	建築意匠設計学実験	特別実験	4			○		工	
	建築意匠設計インターンシップ	演習	4	○				工	
	建築保存再生設計学	講義	2		○			工	
	建築保存再生設計学演習	演習	4	○				工	
	建築保存再生設計学実験	特別実験	4			○		工	
	建築保存再生設計インターンシップ	演習	4	○				工	
	サステナブル建築設計学	講義	2		○			工	
	サステナブル建築設計学演習	演習	4	○				工	
	サステナブル建築設計学実験	特別実験	4	○				工	
	空間構造設計学	講義	2	○					
	空間構造設計学演習	演習	4	○					
	空間構造設計学特別実験	特別実験	4	○					
	建築構造設計学Ⅰ	講義	2		○			工	
	マトリクス構造解析演習	演習	4			○		工	
	マトリクス構造解析実験	特別実験	4			○		工	
	建築構造設計学Ⅱ	講義	2	○				工	
	建築構造設計学演習	演習	4	○				工	
	建築構造設計学実験	特別実験	4	○				工	
	建築構造設計インターンシップ	演習	4	○				工	
	建築構造設計学Ⅲ	講義	2	○					
	建築設備設計学	講義	2	○				工	
	建築設備設計学演習	演習	4	○				工	
	建築設備設計学実験	特別実験	4	○				工	
	建築設備設計インターンシップ	演習	4	○				工	
工芸デザインユニット	建築環境設計学	講義	2		○			工	
	建築環境設計学演習	演習	4			○		工	
	建築環境設計学実験	特別実験	4			○		工	
	建築心理学	講義	2		○			工	
	建築心理学演習	演習	4	○				工	
	建築心理学実験	特別実験	4			○		工	
	建築史学特論	講義	2	○				工	
	建築史学演習	演習	4	○				工	
	建築史学実験	特別実験	4			○		工	
分野共通	応用解析学特論	講義	2	○					
	数理解析特論	講義	2		○				
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○			

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			教科のみ
				前	後	前	後		
分野共通	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○			
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○			
	数理情報学応用特論	講義	2		○		○		
	数理情報学応用演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用演習Ⅱ	演習	2	○		○			
	数理情報学応用特別実験	特別実験	4	○		○			
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○				
	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○					
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○					
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○			
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○			
	学外特別講義	講義	2	○		○			
	学外特別実習	特別実験	2	○		○			



生命医工学専攻

修了に必要な単位数

分野以外の科目の履修

他研究科等での研究指導

研究科共通・専攻共通科目一覧

生命医工学専攻 分野授業科目一覧

生命工学分野



生命医工学専攻のカリキュラム

修了に必要な単位数

生命医工学専攻（生命工学分野）

講義18単位以上（研究科共通必修2単位，専攻共通必修2単位，生命工学分野必修2単位を含む），演習4単位（生命工学分野必修），特別実験8単位（生命工学分野の必修），計30単位以上を修得する。

<修了に必要な単位数>

講義				演習	特別実験	合計
研究科必修科目	専攻必修科目	分野必修科目	選択	分野必修科目	分野必修科目	
2単位	2単位	2単位		4単位	8単位	30単位以上
18単位以上※						

※履修に当たって、自分の所属分野の選択科目から8単位以上、修得することが望ましい。

サステナブルサイエティグローバル人材養成プログラム（各分野に所属しプログラム科目を履修）

専攻の履修（30単位）に加え、次あげる授業科目を12単位以上履修し、計42単位以上を修得する。

- ・研究科共通科目の学外特別講義（長期）2単位，学外特別実習（長期）2単位を修得する。【必修】
- ・講義は，研究科共通科目の科学英語2単位【必修】と，プログラムの各コース科目を6単位履修し，計8単位以上を修得する。

※履修にあたっては博士課程への進学を見据えて，科目の履修及び特定課題研究の指導を受けること。

分野以外の科目の履修

修了に必要な単位は，原則自身の所属する分野の科目（自分分野科目）を修得しますが，教育上有益と認めるときは，自分分野以外の科目を履修することができます。

授業科目の種別	修了に必要な単位として算入できる数	(例) 生命医工学専攻〇〇分野の場合
自分分野科目	制限なし	←〇〇分野の科目
自専攻科目		←〇〇分野以外の工学専攻の科目
自研究科共通科目		←総合理工学研究科共通科目
他専攻科目		←生命医工学専攻・繊維学専攻・理学専攻などの科目
他研究科科目	合計で10単位以内	←経営大学院・教育学研究科などの科目
他大学院科目	履修には研究科の承認が必要	←他大学大学院の科目
学部の科目	算入できない	←工学部の授業科目

※他専攻・学部授業の授業科目の履修（総合理工学研究科規程第11条参照）

指導教員が特に必要と認めるときは，他専攻及び工学・繊維学部等の講義科目を履修することができます。ただし，学部授業の認定単位は，修了に必要な単位に算入できません。また，「科目等履修生」の手続きが必要になります。前期・通年科目は前期履修登録期限，後期科目は後期の履修登録期限までに手続きを済ませる必要があるため，早めに学務係に申し出てください。

※他研究科・他大学院の授業科目の履修（総合理工学研究科規程第12条，13条参照）

本研究科が教育上有益と認めるときは，本学の他の研究科及び他の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目を履修することができ，修了に必要な単位として参入することができます。〔別途手続きが必要〕

※入学前に修得した単位（先取り履修を含む）（総合理工学研究科規程第15条参照）

本研究科が教育上有益と認めるときは，学生が入学前に修得した単位について，修了に必要な単位として算入することができます。〔履修登録期間中に別途手続きが必要〕

他研究科等での研究指導

本研究科が教育上有益と認めるときは，他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができます。なお，研究指導を受ける期間は1年を超えないものとします。

（総合理工学研究科規程第14条参照）

生命医工学専攻 生命工学分野 履修プロセス概念図

・健康・福祉・医療・創薬分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
 ・環境調和社会, 知識基盤社会を多様に支える健康・福祉・医療・創薬分野の高度な専門知識と実践的技術力
 ・さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
 ・専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力
 以上の能力を有する人材

『修士(医工学)』学位授与

最終試験の合格

修士論文の保管
附属図書館

・質の保証

30単位以上を修得

講義科目 18単位以上
(研究科共通科目及び専攻共通科目(必修)各2単位)
(分野専門科目(必修)2単位)

専門科目

生命工学特論(必修), 先進応用生命科学特論, 生命情報科学特論, 先進生命化学特論, 分子生物学特論
10単位
専門的知識・能力

専攻共通科目

応用科目

病院インターンシップ研修 1単位
行政・企業インターンシップ研修 2~6単位
実践教育による専門的知識

基礎科目

力学基礎Ⅰ+力学基礎Ⅱ 4単位
生物学基礎Ⅰ+生物学基礎Ⅱ 4単位
(出身学部で履修していない学生対象)
異分野領域の基礎的知識

医療倫理学・社会医工学
専門分野の基本的知識
2単位(必修)

研究科共通科目

研究者倫理特別講義(CITI-Japan&講義)
研究者としての倫理観の醸成
2単位(必修)

演習4単位(必修)
特別実験8単位(必修)

研究手法の修得・論文執筆
複数教員による指導

研究分野の専門的知識
科学・技術発展の見解・倫理観

思考や妥当性の説明・批判的思考力
研究・開発能力

情報収集・分析能力
情報発信能力

研究課題の決定

・質の担保
早期から計画的な研究指導

指導教員の決定

・組織的な教育研究体制
・質の担保
複数研究分野教員による補助指導

授業科目・研究指導

論文審査

論文発表会
・透明な審査体制
公開による開催

学位論文提出

審査委員の決定

・透明な審査体制
主査1名、副査2名以上

論文題目決定

学位論文作成・
論文審査

2年次

1年次

- 1.大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身に付けている人
- 2.健康・医療・福祉分野の基礎的あるいは応用的研究に高い意欲をもって取り組む人
- 3.科学技術を担う研究者あるいは高度専門職業人として社会をリードするとともに、その技術と知識を持って国際社会に貢献する意欲を持つ人
- 4.科学技術の発展が社会にもたらす影響について十分に考え、社会及び自然環境に配慮したものづくりを目指す人

研究科共通・生命医工学専攻共通科目

★対象学年は、変更になる可能性があります。（毎年、履修案内で要確認）

大学院・研究科共通科目							教職		
区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年		備考			
				1年次				2年次	
				前	後			前	後
研究科共通科目	MOT特論	講義	2	○	○	上田キャンパス開講			
	産学連携特別講義	講義	2	○	○	上田キャンパス開講			
	国際連携特別講義Ⅰ	講義	1	○	○	上田キャンパス開講 英語			
	国際連携特別講義Ⅱ	講義	1	○	○	上田キャンパス開講 英語			
	科学英語	講義	2	○	○	松本キャンパス開講 SUNS開講	※		
	大学院と社会	講義	2	○	○	松本キャンパス開講 SUNS開講	※		
	臨床医学概論	講義	2	○	○	松本キャンパス開講	※		
	研究者倫理特別講義（CITI-Japan&講義）	講義	2	○	○	【全員必修】			
	科学技術政策特論	講義	2	○	○	長野(工学)キャンパス開講 隔年			
	学外特別講義（長期）	講義	2	○	○	長野(工学)キャンパス開講 高度人材育成インターンシップ科目			
	学外特別実習（長期）	特別実験	2	○	○				
	研究者・技術者をめざす大学院生のキャリア設計	講義	2	○	○	SUNS開講	※		
	総合日本語Ⅰ	講義	2	○	○	留学生対象。修了要件外 松本キャンパス開講 SUNS開講	※		
	総合日本語Ⅱ	講義	2	○	○	留学生対象。修了要件外 松本キャンパス開講 SUNS開講	※		
山岳科学教育科目	山岳科学概論A	講義	1	○	○				
	山岳科学概論B	講義	1	○	○				
	山岳フィールド実習A	特別実験	1	○	○				
	山岳フィールド実習B	特別実験	1	○	○				
山岳科学に関する科目群	山岳科学連携講義Ⅰ	講義	1	○	○				
	山岳科学連携講義Ⅱ	講義	1	○	○				
	山岳科学連携講義Ⅲ	講義	1	○	○				
	山岳科学連携講義Ⅳ	講義	1	○	○				
	山岳科学連携講義Ⅴ	講義	1	○	○				
	山岳科学連携講義Ⅵ	講義	1	○	○				
	山岳科学連携演習Ⅰ	演習	1	○	○				
	山岳科学連携演習Ⅱ	演習	1	○	○				
	山岳科学連携演習Ⅲ	演習	1	○	○				
	山岳科学連携演習Ⅳ	演習	1	○	○				
	山岳科学連携演習Ⅴ	演習	1	○	○				
	山岳科学連携演習Ⅵ	演習	1	○	○				

※は大学院共通科目としても開講しています。（他研究科の学生も履修可）

生命医工学専攻 生命工学分野 授業科目一覧

1 / 1

★対象学年は、変更になる可能性があります。（毎年、履修案内で要確認）

授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 教科のみ
			1年次		2年次			
			前	後	前	後		
生命工学特論	講義	2	○				【生命工学分野必修】	理
先進応用生命科学特論	講義	2		○		○		理
生命情報科学特論	講義	2	○		○			理
先進生命化学特論	講義	2	○		○			理
分子生物科学特論	講義	2	○		○			理
生命工学演習Ⅰ	演習	1	○				【生命工学分野必修】	
生命工学演習Ⅱ	演習	1		○			【生命工学分野必修】	
生命工学演習Ⅲ	演習	1			○		【生命工学分野必修】	
生命工学演習Ⅳ	演習	1				○	【生命工学分野必修】	
生命工学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				【生命工学分野必修】	
生命工学特別実験Ⅱ	特別実験	2		○			【生命工学分野必修】	
生命工学特別実験Ⅲ	特別実験	2			○		【生命工学分野必修】	
生命工学特別実験Ⅳ	特別実験	2				○	【生命工学分野必修】	

生命医工学専攻 生体医工学分野 授業科目一覧

1 / 1

★対象学年は、変更になる可能性があります。（毎年、履修案内で要確認）

授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 教科のみ
			1年次		2年次			
			前	後	前	後		
生体医工学特論	講義	2	○				【生体医工学分野必修】	理
生体ロボット学特論	講義	2	○		○			
医療ロボット学特論	講義	2		○		○		理
生体流体力学特論	講義	2		○		○		理
生体マイクロデバイス特論	講義	2	○		○			理
生体情報システム学特論	講義	2		○		○		理
動物行動学特論	講義	2		○		○		理
生体材料学特論	講義	2		○		○		理
バイオメカニクス特論	講義	2	○		○			理
生体応答学特論	講義	2		○		○		理
生体計測学特論	講義	2		○		○		理
組織工学特論	講義	2		○		○		
生体医工学演習Ⅰ	演習	1	○				【生体医工学分野必修】	
生体医工学演習Ⅱ	演習	1		○			【生体医工学分野必修】	
生体医工学演習Ⅲ	演習	1			○		【生体医工学分野必修】	
生体医工学演習Ⅳ	演習	1				○	【生体医工学分野必修】	
生体医工学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				【生体医工学分野必修】	
生体医工学特別実験Ⅱ	特別実験	2		○			【生体医工学分野必修】	
生体医工学特別実験Ⅲ	特別実験	2			○		【生体医工学分野必修】	
生体医工学特別実験Ⅳ	特別実験	2				○	【生体医工学分野必修】	



規 則 集 1

学生の懲戒

学位論文等審査及び最終試験並びに修了判定実施要項

修士論文評価基準

在学期間1年以上2年未満で修了する者の取り扱いに関する申合せ

転専攻に関する申合せ

交流協定に基づく留学に伴う教育課程の計画的特例履修に係る申合せ

長期履修学生制度の取扱要項

他の大学院等における研究指導に関する取扱要項

学生の懲戒

【信州大学学生の懲戒に関する規程（抄）】

本学の規則に違反し、または学生としての本分に反する表1のような行為は、懲戒（退学・停学・訓告）の対象となります。

対象となる行為には、アルコール飲料に関すること・自動車運転に関すること・コンピューターやネットワークに関することなどの身近な行為が原因となることもあれば、他人の自転車を勝手に乗り回すこと・鉄道で不正乗車を行うことなどの、社会的に犯罪行為とみなされるものもあります。

また、試験でのカンニング、レポート等でのコピー&ペースト、授業出席の代返等を軽い気持ちで行うと、停学（無期または有期）や、当該学期科目の単位認定がされない（主な事例は表2参照）ことによる、最低半年から1年の進級・卒業延長もあります。特に悪質な場合は退学になります。

【表1】 信州大学における学生の懲戒に係るガイドライン

平成29年4月1日 改正

懲戒対象行為		該当する懲戒の種類
A 学内秩序を乱す行為	① 「国立大学法人信州大学におけるハラスメントの防止等に関する規程」に抵触する行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	② 本学が実施する試験等における不正行為(詳細は表2に掲げる事例とする)	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	③ 飲酒を強要し, アルコール飲料の一气飲み等が原因となり死に至らしめた行為	退学または停学(無期)
	④ 飲酒を強要し, アルコール飲料の一气飲み等が原因となり急性アルコール中毒等の被害を与えた行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑤ 未成年者と知りながら飲酒を勧める行為	停学(無期または有期)または訓告
	⑥ 未成年者の飲酒行為	停学(無期または有期)または訓告
	⑦ 本学の教育研究又は管理運営を著しく妨げた行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑧ 本学構成員に対する暴力行為, 威嚇行為, 拘禁行為, 拘束行為等	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑨ 本学が管理する建造物への不法侵入または不正使用, 若しくは占拠した行為	停学(無期または有期)または訓告
	⑩ 本学が管理する建造物または器物等の損壊行為, 汚損行為, 不法改築行為等	停学(無期または有期)または訓告
	⑪ 「信州大学における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程」に抵触する行為(データ捏造・改ざんに関わる行為, 論文盗用, 著作権の侵害等)	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑫ 反社会的団体の活動を行っており, その活動が他の学生等に影響を及ぼし本学の秩序を乱すものと認められた行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑬ 違法薬物(麻薬, 大麻等)と類似の効果を持つ薬物を, 正当な理由(治療目的等)なく, 使用, 所持, 譲渡, 仲介若しくは入手しようとする行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
B 犯罪行為	① 殺人, 強盗, 強姦, 放火等の凶悪な犯罪行為または犯罪未遂行為	退学
	② 薬物犯罪行為(麻薬・大麻等の薬物使用・不法所持・売買・仲介等)	退学または停学(無期または有期)
	③ 傷害, 窃盗, 詐欺, 恐喝, 賭博, 住居侵入, 他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為	退学または停学(無期または有期)

	④ 痴漢行為(覗き見, わいせつ, 盗撮行為その他の迷惑行為を含む。)	退学または停学(無期または有期)
	⑤ 「ストーカー行為等の規制等に関する法律(平成12年法律第81号)」に定める犯罪行為	退学または停学(無期または有期)
	⑥ 「児童買春, 児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律(平成11年5月26日法律第52号)」に定める犯罪行為	退学または停学(無期または有期)
	⑦ コンピューターまたはネットワークを用いた犯罪行為	退学または停学(無期または有期)
C 交通事 故・違 反	① 死亡または高度な後遺症を伴う交通事故を起こした場合で, その原因行為が無免許運転, 飲酒運転, 暴走運転等の悪質な場合	退学
	② 人身事故を伴う交通事故を起こした場合で, その原因行為が無免許運転, 飲酒運転, 暴走運転等の悪質な場合	退学または停学(無期または有期)
	③ 無免許運転, 飲酒運転, 暴走運転等の悪質な交通法規違反行為	停学(無期または有期)
	④ 死亡または高度な後遺症を伴う人身事故を起こした場合で, その原因行為が過失の場合	退学または停学(無期または有期)
	⑤ 後遺症等を伴う人身事故を起こした場合で, その原因行為が過失の場合	停学(無期または有期)または訓告

【表2】別表(第18条関係)

本学が実施する試験等における不正行為の事例		単位認定の可否	
		当該科目	不正行為を行った学期の科目
単位認定に係る試験時の行為	替え玉受験をすること及び替え玉受験を依頼すること。	認定しない	認定しない
	許可されていないノートまたは参考書等を使用すること。		
	答案を交換すること。		
	他の受験者の答案を見ることまたは他の受験者に答案を見せること。		
	試験監督者の注意または指示に従わない場合で特に悪質と認められるもの。		
その他不正な行為と認められること。			
単位認定に係るレポート(卒業論文等含む)の行為	他人の著作物を盗用すること。	認定しない	認定しないことができる
	実験や調査結果のデータを捏造または偽造すること。		
	他人が書いたレポート並びに著作物を自分のものとして提出すること。		
他の学生に成り代わり授業に出席または代返等の行為を行った者並びに同行為を依頼した者。	認定しないことができる	特に悪質な場合認定しないことができる	
授業の実施に係るその他不正な行為と認められること。			

学位論文等審査及び最終試験並びに修了判定実施要項

(趣旨)

第1条 この要項は、信州大学大学院学則（平成16年4月7日信州大学学則第2号。以下「大学院学則」という。）第43条の規定に基づき、信州大学大学院総合理工学研究科（以下「研究科」という。）の学位論文又は特定の課題についての研究の成果（以下「学位論文等」という。）の審査及び最終試験並びに修了判定の実施に関し必要な事項を定める。

(学位論文等の提出)

第2条 学位論文等の提出は、次の各号のとおり行う。

- 一 申請者は「修士学位論文等審査申請書」（様式1）に学位論文等、「修士学位論文等要旨」（様式2）を添えて指導教員を経て研究科長に提出する。
- 二 提出期限は、3月又は9月修了に応じて各専攻の定める日とする。

(審査委員会)

第3条 学長からの付託を受けて、研究科委員会は申請者1名について3名以上の研究科の研究指導教員（主査1名、副査2名以上）をもって組織する審査委員会を設け、学位論文等の審査及び最終試験を行う。ただし、審査委員会の設置は各専攻に委託する。

- 2 前項の学位論文の審査に当たっては、各専攻が必要と認めた場合、他の研究科、他の大学院又は研究所等の教員等を副査として加えることができる。
- 3 審査委員会は、学位論文等の審査結果並びに最終試験結果を「修士学位論文等審査及び最終試験結果報告書」（様式3）により、研究科長に報告する。

(学位論文等の審査)

第4条 学位論文等審査は、3月又は9月修了に応じて各専攻の定める期間に行うと共に、発表会を開く。

(最終試験)

第5条 最終試験は学位論文等に関係ある科目について口頭又は筆答により行う。

- 2 最終試験は、3月又は9月修了に応じて各専攻の定める期日までに行う。

(博士課程学位プログラム)

第6条 第2条～第5条の規定に係わらず、大学院学則第27条の3第1項第1号に定めるファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラムの履修生については別に定める。

(修了判定)

第7条 研究科委員会は、審査委員会の報告に基づき、課程修了の可否について議決する。

(学位論文等の保管)

第8条 学位論文等は、審査終了後、学部の図書館及び指導教員がそれぞれ保管する。この場合、指導教員が学位論文を保管する期間は、当該指導教員が信州大学に在職する期間とする。なお、学位論文は、印刷物又は電子媒体で保管する。

(雑則)

第9条 この要項により難い事案が発生した場合は、研究科委員会において審議の上、決定する。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成29年11月9日から施行する。

様式 1

平成 年 月 日
Request made on (YYYYMMDD)

信州大学長 殿
To: The President, Shinshu University

平成 年度入学
Year of Admission

信州大学大学院総合理工学研究科

専攻 分野
Graduate School of Science and Technology, Shinshu University Department Division

学籍番号
Student ID

申請者(姓) 印
Student Name Seal

英文氏名
Student Name

生年月日 昭和・平成・西暦 年 月 日生
Date of Birth (YYYYMMDD) 外国籍の方のみ西暦で記入してください

修士学位論文等審査申請書
Request for Master's Dissertation or Selected Topical Research Evaluation

このたび、信州大学学位規程第4条の規定により、修士()の学位を受けたいので、下記の学位論文等を提出いたしますから御審査くださるよう申請いたします。

In compliance with the rules and regulations of Shinshu University, Article 4, I hereby request a Master's Dissertation or Selected Topical Research Evaluation to receive a Master's Degree in _____. The dissertation title is stated below.

記

学位論文等題名 Title	
------------------	--

※申請者名・英文氏名は学位記に記載される漢字・綴りを記入してください。(※英文氏名 Shinshu Taroh)
※学位論文等題名が外国語の場合は、その和訳を () 書きで併記すること。

様式 2

修士学位論文等要旨
Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者 / The person who submits a thesis	専攻名 / Department	専攻分野
	分野名 / Division	
	学籍番号 / Student ID	
	氏名 / Name	
論文等題目 / Title		
論文等要旨 (1,000字以内) / Abstract (Within 1,000 characters in Japanese or 300 words in English)		

信州大学大学院総合理工学研究科

様式 3

平成 年 月 日

信州大学大学院総合理工学研究科
修士学位論文等審査及び最終試験結果報告書

学位論文提出者			
学籍番号		専攻	専攻
入学年度	平成 年度	分野	分野
申請学位	修士 ()		
学位論文等題目			
学位論文等審査及び最終試験結果審査の要旨			
成績	学位論文等		最終試験
審査年月日	学位論文等審査		最終試験
	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日		平成 年 月 日

注：成績は、合格、不合格の用語で記入すること。

審査委員	
主査	副査
副査	副査

修士論文評価基準

信州大学大学院総合理工学研究科は、以下の基準に拠り、論文審査および口頭試問等を経て、審査委員会が最終的な評価を決定する。

1. 【独創性・意義】

研究目的、研究手法あるいは研究成果は、十分な独創性または意義を有するか。また、学術研究が従うべき規範を守り、研究者としての研究倫理を身に付けているか。

2. 【実験・調査】

研究を遂行するために実施した実験・調査は、適切な方法に基づいて行なわれているか。また、その分析は正確で、結果や解釈が妥当であるか。

3. 【関連資料・参考文献】

研究を遂行するために利用した関連資料・参考文献について、正確な読解、的確な把握、また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。

4. 【論証方法・論旨とデータ（資料）の提示方法】

問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明解かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示と展開の方法は適切であるか。

5. 【表現の的確性】

日本語もしくは使用外国語について、語句や学術用語の使用は的確で、文章表現は論理的であるか。

6. 【論文の体裁】

本文、章立て、注記、関連資料・参考文献からの引用、図表等は、論文構成において、体裁が整っているか。

7. 【総合的評価】

当該分野の研究において、総合的に評価して修士論文に値するか。

(ただし書き)

- 1) 項目2と3の評価基準は、いずれか一方、もしくは両方を採択しうることを示す。
- 2) 参考図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・参考文献」と表記した。
- 3) 実験、実地調査、聞き込み調査、情報・資料提供者（インフォーマント）との面談等、実施する全ての研究作業については、「実験・調査」と表記した。
- 4) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

附 則

この基準は平成28年4月1日より施行する。

工学専攻における

在学期間1年以上2年未満で修了する者の取り扱いに関する申合せ

(趣旨)

第1条 この申合せは、信州大学大学院学則（平成16年4月7日信州大学学則第2号。以下「大学院学則」という。）第40条の規定に基づき、信州大学大学院総合理工学研究科工学専攻（以下「修士課程」という。）の在学期間1年以上2年未満で修了（以下「早期修了」という。）する者の取り扱いに関し必要な事項を定める。

(対象者)

第2条 早期修了の対象となる者は、修了を希望する学期の終了時（3月又は9月）に在学期間が1年以上に達し、かつ、事前審査の承認を得た後、所定の修了要件を満たした者とする。

(事前審査)

第3条 早期修了を希望する者は、3月に修了を希望する場合は10月10日までに、9月に修了を希望する場合は4月10日までに、指導教員に申し出ることとする。

2 指導教員は、次の各号に掲げる書類（原則としてA4版で様式自由）により、希望者の所属する分野の分野会議の承認を受ける。

一 学生からの申出書

二 学生の履歴書

研究歴を主として記載したもの。

三 学生の単位修得状況（修得見込みを含む）に関する調書

四 学生の修士論文作成状況に関する調書

五 指導教員の推薦理由書

この申合せの適用を受けるに値する優秀であること、学業成績に関する所見、研究課題に対するアプローチの仕方における学生の資質と寄与の程度及び研究能力に関する所見等とともに記載したもの。

六 学生の業績書

学位論文に関連した筆頭著者の原著論文1編以上または作品1件以上に関する資料が添付されたもの。

七 指導教員は、前各号に掲げるもののほか、必要と認める場合には、次の書類を提出できる。

イ 学生が、他の大学院又は外国の大学院で修得した単位がある場合には当該大学院の成績証明書

ロ 修了後の進路に関する調書（博士課程への進学等）

ハ その他参考となる書類

3 当該分野の学務委員は、分野会議の承認が得られた後、前項の書類を、3月に修了を希望する場合は10月末日までに、9月に修了を希望する場合は4月末日までに、学務委員長に提出する。

4 学務委員長は、学務委員会に諮った後、総合理工学研究科委員会修士課程工学分科会に諮る。

5 学務委員長は、事前審査結果を当該希望者に通知するとともに総合理工学研究科長へ報告する。

(修士学位論文の審査)

第4条 事前審査に合格した者は、別に定める修士論文審査等に関する要項に従い、修士学位論文の審査手続きを行う。

(雑則)

第5条 この申合せにより難い事案が発生した場合は、学務委員会において審議の上、決定する。

2 早期修了に関する事務は、学務グループ（学務係）において処理する。

3 第3条における期日は、年度により変更されることがある。

附 則（平成23年7月19日工学系研究科委員会修士課程工学分科会決定）

この申合せは、平成23年10月1日から実施する。

附 則

この申合せは、平成24年4月1日から実施する。

附 則

1 この申合せは、平成28年4月1日から実施する。

2 改正前の同申合せは、平成28年3月31日に信州大学大学院理工学系研究科に在学する者に対して、この申合せの施行後も、なおその効力を有する。

転専攻に関する申合せ

総合理工学研究科（以下「研究科」という。）における転専攻については、信州大学大学院学則（平成16年4月7日信州大学学則第2号）第26条第2項の規定に基づき、以下の定めるところによる。

第1条 転専攻の申出資格

研究科の1年次在籍者とする。

第2条 転専攻の時期

学期又は学年の始めとする。

第3条 転専攻の手続き

転専攻の手続きは、次により行うものとする。

(1) 転専攻希望学生は、転専攻を希望する日の2ヶ月前までに、現指導教員及び受入れ専攻において指導を希望する教員の承諾を得たうえで、転専攻願（別紙様式1）及び研究計画書（別紙様式2）を、所属キャンパス担当者をとおして、研究科長へ提出する。

(2) 研究科長は、受入れ専攻に対して転専攻希望学生の受入れについての審査等を依頼する。

第4条 選考方法

受入れ専攻は適性等を判断するため、口頭試問を含む学習状況その他についての審査を行うものとする。

第5条 既修得単位の取扱

(1) 転専攻前に修得した科目の単位は、受け入れ専攻等において修得したものとみなす。

(2) 受け入れ専攻が認める場合は、研究科の承認を得て、修了に必要な単位に参入することができる。

第6条 転専攻の判定

総合理工学研究科委員会で決定する。

第7条 在学期間

転専攻をした者は、転専攻をする前に在学した期間（休学期間を除く。）を通算し、4年を超えて在学することができない。

第8条 休学期間

転専攻をした者の休学期間は、転専攻をする前に休学した期間を通算し、2年を超えることができない。

第9条 留意事項

本申合せにより転専攻を認められた学生に対しては、以後の転専攻は認めないものとする。

第10条 その他

本申合せに規定するもののほか、転専攻に関して必要な事項は、各専攻において定める。

附則

この申合せは、平成26年2月20日から実施する。

附則

この申合せは、平成28年7月14日から施行する。

(別紙様式1)

年 月 日

転専攻願

総合理工学研究科長 殿

入学年月
専攻及び分野
学籍番号
氏 名 印

下記のとおり転専攻したいので、ご許可願います。

記

- 1. 受け入れを希望する専攻 _____ 専攻
- 2. 転専攻希望年月日 _____ 年 月 日
- 3. 転専攻を希望する理由 (詳細に記入)

- 4. 現 指 導 教 員 _____ 印
- 5. 受け入れを希望する専攻の希望指導教員 _____ 印

(別紙様式2)

研 究 計 画 書

学籍番号		氏 名		備 考	※
研究テーマ					

※印の欄は記入しないでください。

信州大学大学院総合理工学研究科

交流協定に基づく留学に伴う教育課程の計画的特例履修に係る申合せ

信州大学大学院学則(平成 16 年 4 月 7 日信州大学学則第 2 号。以下「学則」という。)第 38 条の 2 の規定に基づき、信州大学大学院総合理工学研究科(修士課程)の学生(以下「学生」という。)が、信州大学大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定(研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。)に基づく留学により、学則第 15 条に定める標準修業年限(2 年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修すること(以下「計画的特例履修」という。)に係る取扱いを、次のとおり定める。

第 1 申請資格

計画的特例履修の申請を行うことができるのは、交流協定に基づき留学する 1 年次の学生(大学院学則第 38 条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。)とする。

第 2 計画的特例履修の申請手続

計画的特例履修の開始日は、原則として計画的特例履修を申請した年度の翌年度とする。

第 3 計画的特例履修が適用された場合の修業年限

計画的特例履修が適用された場合の修業年限は、3 年間を超えることはできない。

第 4 申請手続

- 1) 計画的特例履修を希望する学生は、原則として留学を希望する 2 か月前までに「計画的特例履修申請書」(別紙様式 1)を研究科長に提出する。ただし、2 年次在学中に留学を希望する場合は、1 年次在学中の 1 月末日(10 月入学者は 7 月末日)までに提出するものとする。
- 2) 計画的特例履修を許可された学生が休学する場合は、休学する 1 か月前までに「休学に伴う計画的特例履修期間変更申請書」(別紙様式 2)を研究科長に提出する。
- 3) 計画的特例履修を許可された学生が、当該履修の期間を短縮する場合は、各学期が終了する 2 か月前までに「計画的特例履修期間短縮申請書」(別紙様式 3)を研究科長に提出する。

第 5 計画的特例履修の許可及び報告

研究科長は、第 4 に定める申請があったときは、大学院総合理工学研究科代議員会(以下「代議員会」という。)の議を経て、許可の可否を決定し、許可した場合、「計画的特例履修許可書」(別紙様式 4)、「休学に伴う計画的特例履修期間変更許可書」(別紙様式 5)又は「計画的特例履修期間短縮許可書」(別紙様式 6)により当該学生に通知するとともに、学長に報告する。

第 6 授業料の納入

計画的特例履修を許可された学生は、信州大学授業料等に関する規程(平成 16 年信州大学規程第 85 号)に定める授業料の額を各学期の納入期限までに納入するほか、計画的特例履修の期間の短縮を許可された場合及び学年の途中で修了する場合も同規程による。

第 7 その他

この申合せに定めるもののほか、計画的特例履修に関し必要な事項は、代議員会が定める。

附 則

この申合せは、平成 26 年 1 月 17 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 28 年 7 月 14 日から施行する。

(別紙様式 1)

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科 専攻
学籍番号
氏 名
生年月日 年 月 日

計画的特例履修申請書

標記のことに付いて、下記のとおり申請します。

記

留学期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

留学先大学名

計画的特例履修の期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

計画的特例履修期間中の履修計画 (※裏面に詳細に記載してください。)

学務担当者

(別紙様式 1 裏面)

計画的特例履修期間中の履修計画

(留学期間も含めて記載すること)

●当初予定した履修計画と計画的特例履修期間中の履修計画

履修年度	当初予定した履修計画	計画的特例履修期間中の履修計画
平成 年度		
平成 年度		

(別紙様式 2)

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科 専攻
学籍番号
氏 名
生年月日 年 月 日

休学に伴う計画的特例履修期間変更申請書

標記のことに付いて、下記のとおり申請します。

記

休学理由

休学期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

認められている計画的特例履修の期間
平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

変更後の履修期間
平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

履修計画 (※ 裏面に詳細に記載してください。)

指導教員等

(別紙様式 2 裏面)

計画的特例履修期間変更後の履修計画

(留学期間も含めて記載すること)

●計画的特例履修期間中の履修計画と計画的特例履修期間変更後の履修計画

履修年度	計画的特例履修期間中の履修計画	計画的特例履修期間変更後の履修計画
平成 年度		
平成 年度		

(別紙様式3)

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科 専攻
学籍番号
氏 名
生年月日 年 月 日

計画的特例履修期間短縮申請書

標記のことについて、下記のとおり申請します。

記

申請理由.....
.....
.....

認められている計画的特例履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

短縮する履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

修得状況等 (※裏面に詳細に記載してください。)

学務担当者

会計担当者
認

(別紙様式3裏面)

計画的特例履修期間短縮の履修計画

(留学期間も含めて記載すること)

●計画的特例履修期間中の履修計画と計画的特例履修期間短縮の履修計画

履修年度	計画的特例履修期間中の履修計画	計画的特例履修期間短縮の履修計画
平成 年度	前学期	
	後学期	

長期履修学生制度の取扱要項

この取扱要項は、信州大学大学院総合理工学研究科規程（平成28年信州大学規程第268号）第16条に定める長期にわたる教育課程の履修（以下「長期履修学生制度」という。）について、社会人学生等を対象に計画的な長期在学・履修により修学の便宜と授業料の軽減を図ることを目的として、本研究科における取扱いを、次のとおり定める。

1. 申請資格

原則として職業を有している社会人とする。

2. 長期履修の開始日

原則として年次の始めとする。

3. 長期履修の在学年限

4年間を超えることはできない。

4. 申請手続き

長期履修を希望する学生は、入学手続期間内に「長期履修希望調書」（別紙様式1）を、入学後に「長期にわたる教育課程の履修申請書」（別紙様式2）を研究科長に提出する。

在学生にあつては1年次の後学期が終了する2か月前までに「長期にわたる教育課程の履修申請書」（別紙様式2）を研究科長に提出する。

休学に伴う変更については、「休学に伴う長期にわたる教育課程の履修計画変更申請書」（別紙様式3-1）を研究科長に提出する。

また、相当の理由により長期履修期間を延長する場合は、「長期にわたる教育課程の履修期間変更申請書」（別紙様式3-2）を研究科長に提出する。

5. 履修期間の短縮申請手続き

申請が認められた学生が在学期間を短縮する場合は、各学期が終了する2か月前までに「長期にわたる教育課程の履修期間の短縮申請書」（別紙様式4）を研究科長に提出する。

6. 審査及び報告

研究科長は、提出された申請書の審査を専攻会議に付託する。

なお、審査結果は、当該学生あてに許可書（別紙様式5, 6-1, 6-2, 7）を通知するとともに、学長に報告（別紙様式8, 9-1, 9-2, 10）する。

7. 授業料の納入

申請を許可された学生は、「信州大学授業料等に関する規程（平成16年信州大学規程第85号）」が定める長期履修学生の所定の授業料を各学期の納期限までに納入する。そのほか、短縮を許可された場合及び学年途中で修了する場合も同規程による。

附 則

この取扱いは、平成28年4月1日から施行する。

(別紙様式1)

平成 年 月 日

信州大学大学院総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科
専攻

入学年度

受験番号

氏 名

生年月日 西暦(元号) 年 月 日生

長期履修希望調書

標記のことについて、下記のとおり希望します。

記

履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

現 職

(別紙様式1)裏面なし

(別紙様式2)

平成 年 月 日

信州大学大学院総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科 専攻

入学年度

学籍番号

氏 名

生年月日 西暦(元号) 年 月 日生

長期にわたる教育課程の履修申請書

標記のことについて、下記のとおり申請します。

記

申請理由

履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
(入学年月日を記入)

履修計画 (※裏面に詳細に記載してください。)

指導教員 ㊟

(別紙様式2)裏面

履修計画

(入学時点からのものを記載すること)

●修得単位数等

・修得単位数.....単位

・その他.....

●履修計画

履修年度	前 期	後 期
平成 年度		

※ 計画的な教育課程の修業年限は、大学院学則第16条に定める在学期間を超えることはできない。

(別紙様式 3-1)

平成 年 月 日

信州大学大学院総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科 専攻

入学年度

学籍番号

氏 名

生年月日 西暦(元号) 年 月 日生

休学に伴う長期にわたる教育課程の履修計画変更申請書

標記のことについて、下記のとおり申請します。

記

休学理由.....

休学期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
(入学年月日を記入)

履修計画 (※裏面に詳細に記載してください。)

指導教員 ㊟

(別紙様式 3-1) 裏面

履 修 計 画

(入学時点から休学期間も含めて記載すること)

●修得状況及び今後の履修計画

履修年度	前 期	後 期
平成 年度		

※ 計画的な教育課程の修業年限は、大学院学則第 16 条に定める在学期間を超えることはできない。

(別紙様式 4)

平成 年 月 日

信州大学大学院総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科 専攻

入学年度

学籍番号

氏 名

生年月日 西暦(元号) 年 月 日生

長期にわたる教育課程の履修期間の短縮申請書

標記のことについて、下記のとおり申請します。

記

申請理由.....

認められている履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
(入学年月日を記入)

短縮する履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
(入学年月日を記入)

修得状況等 (※裏面に詳細に記載してください。)

指導教員 ㊟

会計担当者確認

(別紙様式 4) 裏面

修 得 状 況 等

(入学時点から休学期間も含めて記載すること)

●修得状況等

履修年度	前 期	後 期
平成 年度		

他の大学院等における研究指導に関する取扱要項

(趣旨)

第1条 信州大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第36条の規定に基づき、信州大学大学院総合理工学研究科の学生が他の大学の大学院若しくは研究所等又は外国の大学の大学院若しくは研究所等（以下「他の大学院等」という。）において、特定の課題について研究指導を受ける場合の取扱いについては、この要項の定めるところによる。

(協議)

第2条 大学院学則第36条に規定する協議は、他の大学院等と事前に次の各号に掲げる事項について、指導教員が調整の上、総合理工学研究科長（以下「研究科長」という。）が行う。

- (1) 研究課題
- (2) 研究期間
- (3) 対象となる学生
- (4) 他の大学院等における研究を指導する者
- (5) 授業等費用の取扱方法
- (6) その他必要な事項

(研究指導の許可)

第3条 他の大学院等において研究指導を受けることの許可は、代議員会の議を経て、研究科長が行う。

(受入れの依頼)

第4条 研究科長は、前条により研究指導を受けることを許可した学生について、大学院等に受入れを依頼するものとする。

(研究指導の手続)

第5条 他の大学院等において研究指導を受けようとする者は、大学院等が国内にある場合は、履修願（別紙様式1）を、外国にある場合は留学願（別紙様式2）を指導教員の承認を得て、研究科長に提出しなければならない。

(研究指導の許可期間)

第6条 他の大学院等で研究指導を受けることのできる期間は、1年を超えないものとする。

(研究課題)

第7条 他の大学院等において受ける研究指導の課題は、研究科の学生として必要かつ適切な指導を受けることが期待できる研究課題とする。

(研究報告)

第8条 他の大学院等において研究指導を受けることを許可された者は、研究指導を受け始めたときは、直ちに研究開始届（別紙様式3）を研究科長に提出しなければならない。

2 他の大学院等において研究指導を受け終わったときは、直ちに研究終了届（別紙様式4）及び研究成果報告書（別紙様式5）に大学院等から交付された研究指導を受け終わったことの証明書等を添付の上研究科長に提出しなければならない。

(授業料の納付)

第9条 他の大学院等において研究指導を受けることを許可された者は、当該期間中においても、信州大学に所定の授業料を納付しなければならない。

附則

この要項は、平成3年4月1日から施行する。

附則

この要項は、平成7年4月1日から施行する。

附則

この要項は、平成17年4月1日から施行する。

附則

1 この要項は、平成24年4月1日から施行する。

- 2 工学系研究科が存続するまでの間、現に工学系研究科に在学する学生については、この要項中「理工学系研究科」を「工学系研究科」と、「理工学系研究科長」を「工学系研究科長」と、それぞれ読み替えて適用するものとする。

附則

- 1 この要項は、平成26年4月1日から施行する。

附則

- 1 この要項は、平成28年7月14日から施行する。
 2 理工学系研究科が存続するまでの間、現に理工学系研究科に在学する学生については、この要項中「総合理工学研究科」を「理工学系研究科」と、「総合理工学研究科長」を「理工学系研究科長」と、それぞれ読み替えて適用するものとする。

<p>別紙様式 1</p> <p style="text-align: right;">平成 年 月 日</p> <p>総合理工学研究科長 殿</p> <p>専攻・分野名 _____ 学 籍 番 号 _____ 氏 名 _____ 印 指導教員氏名 _____ 印</p> <p style="text-align: center;">履 修 願</p> <p>信州大学大学院学則第 36 条の規定に基づき、下記のとおり研究指導を受けたいので御許可くださるようお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 研究指導を受ける他の大学院研究科名又は研究所名 2. 履修期間 平成 年 月 日から平成 年 月 日まで 3. 研究課題 4. 理 由</p>	<p>別紙様式 2</p> <p style="text-align: right;">平成 年 月 日</p> <p>総合理工学研究科長 殿</p> <p>専攻・分野名 _____ 学 籍 番 号 _____ 氏 名 _____ 印 指導教員氏名 _____ 印</p> <p style="text-align: center;">留 学 願</p> <p>信州大学大学院学則第 36 条の規定に基づき、下記のとおり研究指導を受けたいので留学いたしたく、御許可くださるようお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 留学先（研究指導を受ける他の大学院研究科名又は研究所名） 2. 所在地 3. 留学期間 平成 年 月 日から平成 年 月 日まで 4. 出発（予定）年月日 平成 年 月 日 5. 研究課題 6. 理 由 7. 渡航先の連絡場所 8. 旅費及び滞在費 <small>備考 滞在保証書又はこれに類する書類及び当該大学院等の概要又は案内書を添付すること。</small></p>
---	---

別紙様式3

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

専攻・分野名 _____
学 籍 番 号 _____
氏 名 _____ 印

研 究 開 始 届

私は, _____ (大学大学院) _____ (研究所) で
_____ (研究科)

_____ の指導の下に研究課題 _____ につ
いての研究を _____ 月 _____ 日から開始しましたのでお届けします。

指導教員・氏名 _____ 印

別紙様式4

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

専攻・分野名 _____
学 籍 番 号 _____
氏 名 _____ 印

研 究 終 了 届

私は, _____ (大学大学院) _____ (研究所) で
_____ (研究科)

_____ の指導の下に研究課題 _____ につ
いての研究を行っていましたが _____ 月 _____ 日終了しましたの
でお届けします。

指導教員・氏名 _____ 印

別紙様式5

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

専攻・分野名 _____
学 籍 番 号 _____
氏 名 _____ 印

研 究 成 果 報 告 書

1. 研究指導を受けた他の大学院研究科名又は研究所名
2. 研究指導者の職・氏名
3. 研究期間
平成 年 月 日から平成 年 月 日まで
4. 研究課題
5. 研究成果概要 (600字以内)